

シラバス

2026年度

理学療法学科

学校法人医療創生大学

千葉・柏リハビリテーション学院

シラバス (Syllabus) について

シラバスとは学習計画のことであり、個別講義の受講に関する情報（概要、到達目標、学習内容・方法、評価の方法）が全て盛り込まれている。

シラバスを利用する目的として、

- ①学生が講義の流れを理解し、円滑に授業を受けられる。
- ②教員は学生に対して円滑に授業を進行できる。

以上のために利用され、授業計画の進捗状況と、学生が目標を達成し、学習効果をあげているかを教員だけでなく学生の両者がその状況を総括できるものである。また、シラバスを介して学生と教員間の互いのコミュニケーションのツールとして活用できるものである。

学生はシラバスを通読し、常に携帯するように心がけてください。そして充実した学生生活を送るため、また効率良い学習のために大いに役立ててください。

I. 千葉・柏リハビリテーション学院の教育理念

葵会グループの「治す」と「防ぐ」を高いレベルで両立する進化した医療を提供することを踏まえ「健康でかけがえのないその人らしい人生を尊重する」ことを教育理念とした教育を実践する。「その人らしい人生」とは、その人の人格を尊重することのみならず、唯一無二のかけがえのない健康な人生そのものを尊重することである。

葵会グループの理念に基づいた教育を実践するとは、理学療法、作業療法に必要な知識・技術・態度を得し、他者に対する暖かいまなざしを持ち「ケアリング」と「コーチング」を追求する高い倫理観を持った専門医療技術者を育てることである。さらに、理学療法士・作業療法士という職業を通して、学修者の「アイデンティティ」形成が深められ、それが職業観に結びつくような教育を実践することである。

II. 教育目的・教育目標

教育目的

科学的根拠に基づき、主体的に考え、実践できる専門医療技術者の育成のために、理学療法・作業療法に関する理論および技術を教授する。そして、専門医療技術者としての誇りと自覚を持ち、葵会グループ・地域社会に広く貢献できる専門技術者を育成することを目的とする。

教育目標

- 1 生命の尊厳を基盤とし、理学療法・作業療法の対象を身体的・精神的・社会的な側面を持つ統合体としての人間を幅広く理解する能力を養う。
- 2 対象の能力障害を科学的根拠に基づいて判断し 理学療法・作業療法を実践できる能力を養う。
- 3 自己洞察ができ、他者に対し、深い愛情とケアリングができる人間関係を営む能力を養う。
- 4 進展する医療や社会のニーズに対応した臨床的観察力・分析力を活用し、治療計画立案能力を養う。
- 5 保健・医療・福祉チームの一員として、理学療法・作業療法の役割と責任を果たし、他職種と協同・調整する能力を養う。
- 6 専門医療技術者を目指し、倫理観を培うとともに自己教育力を養う。

III. 学科別教育目的・教育目標 （理学療法学科）

- 1 生命の尊厳を基盤とし、理学療法の対象を身体的・精神的・社会的な側面を持つ統合体としての人間を幅広く理解する役割を養う。
- 2 対象の能力障害を科学的根拠に基づいて判断し、理学療法を実践できる能力を養う。
- 3 自己洞察ができ、他者に対し、深い愛情とケアリングができる人間関係を営む能力を養う。

理学療法学科 教育課程表

区分	教育内容	規定 単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計	
					時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	履修 単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	14	人間関係とコミュニケーション	講義	30	15	2							30	2
			臨床コミュニケーション論	講義				30	15	2				30	2
			自然科学概論	講義	30	15	2							30	2
			医学情報処理	講義	30	15	2							30	2
			保健体育	講義	30	15	2							30	2
			医学英語	講義	30	15	2							30	2
			心理学	講義	30	15	2							30	2
			小計		180		12	30		2				210	14
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	12	解剖学	講義・演習	120	60	4							120	4
			生理学	講義・演習	120	60	4							120	4
			生理学演習	演習	45	23	1							45	1
			運動学Ⅰ	講義・演習	30	15	1							30	1
			運動学Ⅱ	講義・演習	60	30	2							60	2
			臨床運動学	演習				45	23	1				45	1
			小計		375		12	45		1				420	13
	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	14	病理学	講義	30	15	1							30	1
			臨床心理学	講義	15	8	1							15	1
			内科学	講義・演習	30	15	1							30	1
			整形外科	講義・演習	30	15	1							30	1
			神経内科学	講義・演習	30	15	1							30	1
			精神医学	講義	15	8	1							15	1
			小児科学	講義	15	8	1							15	1
			臨床医学と画像診断	講義・演習	30	15	1							30	1
			老年医学	講義・演習				30	15	1				30	1
			リハビリテーション医学	講義	15	8	1							15	1
			人体と薬理	講義	15	8	1							15	1
			予防医学と公衆衛生	講義	30	15	1							30	1
			救命救急の基礎	講義	15	8	1							15	1
			人体と栄養	講義	15	8	1							15	1
			小計		285		13	30		1				315	14
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	4	リハビリテーション概論	講義	30	15	1							30	1
			職業関連リハビリテーション学	講義	15	8	1							15	1
			地域マネジメント論	講義				15	8	1				15	1
			多職種連携演習	演習	45	23	1							45	1
			小計		90		3	15		1				105	4

理学療法学科 教育課程表

区分	教育内容	規定 単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計	
					時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	履修 単位数
専門 分野	基礎理学療法学	6	障害評価学Ⅰ	講義				30	15	1				30	1
			障害評価学Ⅱ	講義				30	15	1				30	1
			基礎理学療法学	講義	30	15	2							30	2
			運動療法学総論Ⅰ	講義	30	15	1							30	1
			運動療法学総論Ⅱ	講義				30	15	1				30	1
			小計		60		3	90		3				150	6
	理学療法評価学	6	理学療法評価学Ⅰ	講義	60	30	2							60	2
			理学療法評価学Ⅱ	講義	60	30	2							60	2
			理学療法評価学Ⅲ	講義				60	30	2				60	2
			理学療法画像評価学	講義				15	8	1				15	1
			小計		120		4	75		3				195	7
	理学療法管理学	2	理学療法管理学	講義							30	15	2	30	2
			小計							30		2	30	2	
	理学療法治療学	20	運動療法治療学	講義							30	15	1	30	1
			物理療法治療学	講義				15	8	1				15	1
			物理療法治療学演習	演習				45	23	1				45	1
			義肢装具学	講義				30	15	1				30	1
			義肢装具学演習	演習				45	23	1				45	1
			日常生活動作治療学	講義				30	15	1				30	1
			中枢神経疾患理学療法治療学Ⅰ	講義				60	30	2				60	2
			中枢神経疾患理学療法治療学Ⅱ	講義				30	15	1				30	1
			骨・関節疾患理学療法治療学	講義				60	30	2				60	2
			内部障害・呼吸器理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1
			内部障害・呼吸器理学療法治療学演習	演習				45	23	1				45	1
			小児疾患理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1
			脊髄損傷理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1
			スポーツ理学療法学	講義				30	15	1				30	1
			総合理学療法学Ⅰ	講義	30	15	1							30	1
			総合理学療法学Ⅱ	講義				60	30	2				60	2
			理学療法治療学研究	講義							15	8	1	15	1
			小計		30		1	540		17	45		2	615	20
			地域理学療法学	3	生活環境論	講義				30	15	1			
	地域理学療法学	講義			30	15	1							30	1
	地域理学療法学演習	演習						45	23	1				45	1
	小計				30		1	75		2				105	3
	臨床実習	20	見学実習	実習	45		1							45	1
			評価実習	実習				180		4				180	4
			地域理学療法実習	実習				45		1				45	1
			総合臨床実習Ⅰ	実習							360		8	360	8
			総合臨床実習Ⅱ	実習							360		8	360	8
			小計		45		1	225		5	720		16	990	22
	理学療法学特論	3	理学療法学特論Ⅰ	演習	45	23	1							45	1
			理学療法学特論Ⅱ	演習				45	23	1				45	1
			理学療法学特論Ⅲ	講義							30	15	1	30	1
			小計		45		1	45		1	30		1	120	3
合計		104	合計		1260		51	1170		36	825		21	3255	108

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	I 基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解
	14単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人間関係とコミュニケーション		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	田邊康二
教 育 目 標	【一般目標】 医療スタッフとしての適性や態度について考え、今後の実習に備える。						
	【行動目標】 1. 医療スタッフに求められる接遇を理解し、実施できる。 2. 丁寧な話し方で受け答えができる。 3. 情報の管理について理解する。						
成績評価方法	定期試験にて総合的に判断する予定である。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、医療人としての基本①：身だしなみについて						田邊康二
2	医療人としての基本②：人間関係の重要性 【身だしなみチェック①】						
3	医療人としての基本③：医療人としての振る舞い 【身だしなみチェック②】						
4	医療人としての基本④：職場のルール 【身だしなみチェック③】						
5	患者の接遇①：接遇の基本 【身だしなみチェック④】						
6	患者の接遇②：接遇の実践 【身だしなみチェック⑤】						
7	敬語の使い方①：正しい姿勢 【身だしなみチェック⑥】						
8	敬語の使い方②：言葉の使い方、話し方 【身だしなみチェック⑦】						
9	電話対応①：電話の受け答えについて 【身だしなみチェック⑧】						
10	電話対応②：電話の受け答えについて 【身だしなみチェック⑨】						
11	院内での対応①：学外実習時の行動・実習内容とは 【身だしなみチェック⑩】						
12	院内での対応②：理学療法士の行動・仕事内容とは 【身だしなみチェック⑪】						
13	院内での対応③：院内で必要となる接遇とは 【身だしなみチェック⑫】						
14	院内での対応④：院内で必要となる接遇とは 【身だしなみチェック⑬】						
15	個人情報保護法：情報の扱いについて、まとめ 【身だしなみチェック⑭】						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 ・ほぼ毎回、講義開始時には、みだしなみチェックを行う。早い段階で整える努力をすること。 ・後期に行われるOSCE試験（12/21実施）、見学実習（1/25～30実施）に活かせるよう学習を深めておくこと。 ・スマホやPC（タブレットも含む）は許可がある場合以外に本科目の授業中は利用しないこと。 ・授業中に教員の指示に従わない場合は退出を指示する場合がある。速やかに対応すること。							
テキスト 必要に応じて資料を配布する。							
参考書 ケーススタディで学ぶ 患者接遇パーフェクト・レッスン ○患者対応マナーのランクアップ教本○ （2023年新版）／小佐野美智子 著／医学通信社							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床コミュニケーション論		講義	前期	PT2年	2単位	30時間	宮下雅史
教 育 目 標	【一般目標】 臨床の現場における、理学療法士としてのあるべき姿を学ぶ。 【行動目標】 1. 人間としての基本的な振る舞いを知る。 2. 臨床現場のコミュニケーションを学び、アウトプットできる場を作る。 3. 臨床現場のコミュニケーションについて議論を重ね、全員で問題を解決していく。						
成 績 評 価 方 法	グループ発表および提出物の内容、最終試験で総合的に評価する。						
回	内 容						担 当 者
1	オリエンテーション／コミュニケーションの基礎						宮下雅史
2							
3	事例検討/グループワーク ①						
4							
5	事例検討/グループワーク ②						
6							
7	事例検討/グループワーク ③						
8							
9	事例検討/グループワーク ④						
10							
11	事例検討/グループワーク ⑤						
12							
13	事例検討/グループワーク ⑥						
14							
15	まとめ						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 ・グループワークが中心となります。 ・グループ内で積極的にコミュニケーションを取り、楽しい授業にしましょう。							
テキスト 特になし（必要に応じて講義内で資料を配布）							
参考書 各種教科書から抜粋							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
自然科学概論		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	伊藤栄司
教 育 目 標	【一般目標】 科学的知識の基礎となる自然科学を概要を理解できる。 人体の運動に起こる物理現象についてはリハビリテーションの基礎となるため、その仕組み、関係を重点的に理解できる。 【行動目標】 1. 自然科学に必要な単位を表記できる。2. 運動・仕事・力の関係について説明できる。 3. 物理現象について説明できる。 4. 物理現象を算出する計算式を適切に選択できる。 5. 物理現象を算出する計算から適切な答えを導き出せる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験及び小テストで総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	講義内容説明, 自然科学基礎知識（１）						伊藤栄司
2	自然科学基礎知識（２）						
3	バイオメカニクス「運動（１）速度・加速度・法則」						
4	バイオメカニクス「運動（２）仕事・運動量」						
5	バイオメカニクス「運動（３）総合」						
6	バイオメカニクス「力（１）種類・つり合い」						
7	バイオメカニクス「力（２）モーメント」						
8	バイオメカニクス「力（３）総合」						
9	バイオメカニクス「てこ（１）基本」						
10	バイオメカニクス「てこ（２）滑車・輪軸」						
11	バイオメカニクス「てこ（３）総合」						
12	バイオメカニクス「仕事（１）基本・エネルギー」						
13	バイオメカニクス「仕事（２）エネルギーの保存」						
14	バイオメカニクス「仕事（３）総合」						
15	バイオメカニクス「総合」						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 講義内で演習を毎回実施します。分からないことは授業前、授業後等に必ず対応します。 気持ちで負けず、「諦めないこと、分からないままにしないこと」を意識してください。							
テキスト プリントの配布							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学情報処理		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	高田祐
教 育 目 標	【一般目標】 高度情報化社会におけるITモラル、ITリテラシーの必要性を認識し、E-mailを含む知識・操作技術の向上を目指す。また、情報保護に関するモラルや意識・行動規範を学習する。そして、医療従事者に必要なWord、Excel、Power Pointの操作について学修する。 【行動目標】 E-mail、Word、Excel、Power Pointの操作ができるようになる。						
成績 評価 方法	3回予定しているグループ発表の内容にて評定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、ICT環境の理解と活用、E-mailの活用(講義)						高田祐
2	インターネットの活用した調べもの学習(個人演習)						
3	グループ編成、グループ演習(Wordを活用した資料まとめ)						
4	グループ演習(Wordを活用した資料まとめ)						
5	グループ発表						
6	3回予定しているグループ発表の内容にて評定する。						
7	Excelを用いた統計方法(講義)、課題(個人演習)						
8	文献抄読会準備(グループ演習)						
9	文献抄読会準備(グループ演習)						
10	文献抄読発表(グループ)						
11	プレゼンテーション技法(講義)						
12	医療者のスライド作成方法(講義)						
13	スライド作成(グループ演習)						
14	スライド作成(グループ演習)						
15	プレゼンテーション発表(グループ)						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 ①各自、自身のnotePCを持参すること。(必ず、自宅にてバッテリー残量を確保して出席すること) ②活発なグループ討議をすること。③授業中(グループ課題中)は課題内容以外の事はしないこと。 ④提出期限を厳守すること。⑤課題内容以外の会話はしないこと。							
テキスト ・大学一年生のための情報リテラシー(丸善出版) ・適宜資料を配布する。							
参考書 特になし。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
保健体育		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	早瀬知穂
教 育 目 標	【一般目標】 1. 健康的な生活を営むうえで必要な知識を学び、自身の実生活に生かせるようになること。 2. 体を動かすことを通じて、運動に親しむとともに、仲間とコミュニケーションを取れるようになること。 【行動目標】 主体的に授業に取り組むこと。						
成績 評価 方法	第3, 5, 7, 9, 11回の講義後に実施する計5回の小レポートおよび最終レポートによって評価する。 1回の小レポートの点数は10点満点とし、合計50点を満点とする。最終レポートは50点満点で評価する。これらの合計点は100点とし、60点以上で合格とする。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						早瀬知穂
2	【講義】日本の運動と健康						
3	【講義】生涯にわたる運動と健康①（子ども・青年期）						
4	【実技】体力測定①						
5	【講義】生涯にわたる運動と健康②（勤労者・高齢者）						
6	【実技】屋内運動						
7	【講義】健康づくりのための運動科学						
8	【実技】屋内運動						
9	【講義】運動習慣の心理学						
10	【実技】屋内運動						
11	【講義】健康と環境						
12	【実技】屋内運動						
13	【講義】多様なスポーツ文化						
14	【実技】屋内運動						
15	【実技】体力測定②						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 本授業は講堂で講義と実技を行います。屋内運動は激しい運動は行わないため、必ずしも運動着や運動に適したシューズは必要ではないですが、持参することを推奨します。							
テキスト なし							
参考書 なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学英語		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	佐藤喬
教 育 目 標	【一般目標】 現代の若者には、英語の素養は不可欠と思うが、例年英語嫌いの人が多い。 一人でも多く、英語のセンスを身につけ、英語が好きになる人を育てたい。 【行動目標】 英語の基本は語順の理解であると考えているので、並べかえに力を入れる。 併せて、医学、リハビリ関連の表現、用語を覚える。						
成 績 評 価 方 法	定期試験及び小テストの得点で総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	並べかえ250問＋身体の単語＋長文読解						佐藤喬
2	並べかえ250問＋リハビリ用語＋長文読解						
3	並べかえ250問＋症状の表現＋長文読解						
4	並べかえ250問＋リハビリ動作の表現＋長文読解						
5	並べかえ250問＋病名用語＋長文読解						
6	並べかえ250問＋患者応接用例＋長文読解						
7	並べかえ250問＋医学関連基本単語＋長文読解						
8	並べかえ250問＋英文レポートの作り方＋長文読解						
9	並べかえ250問＋身体の単語（2回目）＋長文読解						
10	並べかえ250問＋リハビリ用語（2回目）＋長文読解						
11	並べかえ250問＋症状の表現（2回目）＋長文読解						
12	並べかえ250問＋リハビリ動作の表現（2回目）＋長文読解						
13	並べかえ250問＋病名用語（2回目）＋長文読解						
14	並べかえ250問＋応接表現（2回目）＋長文読解						
15	並べかえ250問＋英文レポート（2回目）＋長文読解						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 英語は世界の共通語として定着している。英語を身につけ、グローバル社会に適応できる職業人になっ てほしい。							
テキスト ・自作プリントを配布する。 ・各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可）							
参考書 随時案内する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
心理学		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	松平友見
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者として必要な、人間の心理的機能や特性に関する基本的知識を習得する。 【行動目標】 1. 認知機能の種類と特徴を理解し、説明することができる。 2. 認知機能、パーソナリティの測定方法を理解し、説明することができる。 3. 心理的・精神的な障害の概略を理解し、説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	心理学概論 ― 認知心理学を中心に ―						松平友見
2	感覚						
3	知覚						
4	記憶①						
5	記憶②						
6	知能①						
7	知能②						
8	学習						
9	パーソナリティ①						
10	パーソナリティ②						
11	心理検査実習						
12	高次脳機能障害						
13	発達障害						
14	パーソナリティ障害						
15	障害受容						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 ・人間の認知機能（見る、聞く、考える、記憶するなど）の仕組みとともに、それが障害された場合にはどのような症状が現れるのかをわかりやすく学びます。 ・第11回授業では、心理検査を使用した自己分析を行います。							
テキスト 中川 明仁ほか（編著）. (2024). 心理学・臨床心理学（Crosslink basic リハビリテーションテキスト）. メジカルビュー社.							
参考書 はじめて出会う心理学 第3版 長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ, 2020）							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	II 専門基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	人体の構造と機能及び心身の発達
	12単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
解剖学		講義・演習	通年 (前期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な骨・筋を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。 【行動目標】 1. 人体の基本構造について理解できる。 2. 骨の解剖学的名称を述べることができる。 3. 筋の解剖学的名称を述べることができる。 4. 筋の収縮による作用および起始・停止を説明できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験や提出物等で総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	解剖学総論						瀧本章平
2							
3	細胞と組織						
4							
5	骨の基本構造						
6							
7	筋の基本構造						
8							
9	骨学上肢						
10							
11	筋学上肢						
12							
13	上肢の関節						
14							
15	骨学下肢						
16							
17	筋学下肢						
18							
19	下肢の関節						
20							
21	骨学体幹						
22							
23	筋学体幹						
24							
25	骨学頭蓋						
26							
27	筋学頭頸部						
28							
29	頭蓋・脊柱の関節						
30							
履修者へのコメント ※90時間以上の自己学習を要する。 解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。							
テキスト ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版 (医学書院) ・解剖学を学ぶための必須演習 全身骨学 学習サイドノート 第2版 (わかば出版) ・プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版 (医学書院)							
参考書 ・標準解剖学 第1版 (医学書院) ・解剖学講義 改定3版 (南山堂)							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員	
解剖学		講義・演習	通年 (後期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平	
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に作業療法士に必要な神経・感覚器・内臓を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。							
	【行動目標】 1. 中枢ならびに末梢神経に関する基本的知識を習得するとともに神経系と筋の相互関係を理解し、説明することができる。 2. 体腔の区分と各臓器の配置を機能と関連づけて説明することができる。							
成 績 評 価 方 法	定期試験や提出物等で総合的に判断する。							
回	内 容						担当者	
31	神経細胞と組織の分類						瀧本章平	
32								
33	中枢神経（大脳）							
34								
35	中枢神経（大脳基底核）							
36								
37	中枢神経（大脳辺縁系/間脳）							
38								
39	中枢神経（脳幹）							
40								
41	中枢神経（脊髄）							
42								
43	末梢神経（脳神経）							
44								
45	末梢神経（頸神経叢/腕神経叢）							
46								
47	末梢神経（胸神経・腰神経叢）							
48								
49	末梢神経（仙骨神経叢/尾骨神経叢）							
50								
51	末梢神経(自律神経)							
52								
53	内臓学（循環器/血管走行）							
54								
55	内臓学（呼吸器/血管走行）							
56								
57	内臓学（消化器/血管走行）							
58								
59	内臓学（泌尿器/血管走行）							
60								
履修者へのコメント ※90時間以上の自己学習を要する。 解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。								
テキスト ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版 （医学書院） ・解剖学を学ぶための必須演習 全身骨学 学習サイドノート 第2版 （わかば出版） ・プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版（医学書院）								
参考書 ・標準解剖学 第1版（医学書院） ・解剖学講義 改定3版（南山堂）								

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生理学		講義・演習	通年 (前期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。 【行動目標】 1. 人体の機能について説明することができる。 2. 血液の働きについて学び、体液と血液の違いや生体にもたらす機能を説明することができる。 3. 内臓機能（循環器・呼吸器）について神経系と関連づけて説明することができる。						
成績評価方法	定期試験や提出物等で総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	生理学とは						瀧本章平
2							
3	細胞の機能						
4							
5	赤血球						
6							
7	血小板						
8							
9	血液凝固機構						
10							
11	白血球						
12							
13	生体防御機構						
14							
15	体液と酸塩基平衡						
16							
17	骨の生理						
18							
19	筋の生理 興奮収縮連関						
20							
21	脊髄反射						
22							
23	循環器系						
24							
25	血圧						
26							
27	呼吸器系						
28							
29	脳波と睡眠						
30							
履修者へのコメント ※90時間以上の自己学習を要する。 生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。							
テキスト 生理学テキスト 第9版（文光堂）							
参考書 ・標準生理学 第10版（医学書院） ・標準理学療法学・作業療法学 生理学 第6版（医学書院）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生理学		講義・演習	通年 (後期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。						
	【行動目標】 1. 各内臓機能について学び、多方面へ関連づけて説明することができる。 2. 消化器系の酵素や吸収方法について説明することができる。 3. 内分泌系の作用のみならず過剰症や低下症について説明することができる。 4. 神経の伝導と化学伝達物質について説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験や提出物等で総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
31	消化器系（咀嚼と嚥下）						瀧本章平
32							
33	消化器系（分解と吸収）						
34							
35	消化器系（肝臓と胆嚢）						
36							
37	代謝						
38							
39	泌尿器系						
40							
41	内分泌系（視床下部 - 下垂体）						
42							
43	内分泌系（甲状腺）						
44							
45	内分泌系（腎臓と副腎）						
46							
47	内分泌系（生殖器系）						
48							
49	神経伝導と伝達						
50							
51	体性感覚						
52							
53	内臓感覚						
54							
55	特殊感覚						
56							
57	特殊感覚						
58							
59	生殖器系						
60							
履修者へのコメント ※90時間以上の自己学習を要する。 生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。							
テキスト 生理学テキスト 第9版（文光堂）							
参考書 ・ 標準生理学 第10版（医学書院） ・ 標準理学療法学・作業療法学 生理学 第6版（医学書院）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生理学演習		演習	後期	PT1年	1単位	45時間	田崎雅和
教 育 目 標	【一般目標】 生理学は生命現象とその背後にある法則や概念を物理的な手法で追究する学問である。本実習では、生体機能の機序を実験を通して理解する。 【行動目標】 神経系機能、心機能、筋機能(骨格筋)、感覚機能(体性感覚・特殊感覚)、血液機能、唾液・嚥下機能などの基礎的な事項を理解し、説明できる。						
成 績 評 価 方 法	レポート(90%)およびまとめテスト(10%)にて評価する。						
回	内 容						担当者
1	神経筋標本に関する演習						田崎雅和
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
実習のまとめ							
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・将来の医療人としての態度と技術を、実習を通して涵養してほしい。 ・実習を行う事で、基礎的な医療技術を学んでほしい。							
テキスト 生理学テキスト 第9版 (文光堂)							
参考書 ヒューマンボディ からだの不思議がわかる解剖生理学 エルゼビア・ジャパン							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅰ		講義・演習	前期	PT1年	1単位	30時間	佐川裕也
教 育 目 標	【一般目標】 解剖・生理学などの知識を用いて、生体のメカニズムを理解し、ヒトの運動・動作を観察や測定、分析するための基礎となる知識を学ぶ。 【行動目標】 1. 運動学や運動力学を用いて、運動や動作に関する知識を説明できる。 2. 四肢、体幹の運動学的特徴を説明し、場所を示すことができる。 3. 基本的な動作の特徴を説明できる。 4. 身体関節運動に関するテコについて説明ができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験にて総合的に判断する予定です。 ※進捗状況により、小テストを実施する可能性あり。 ピア・ティーチング（学生が学生を教える）を実施した場合、加点する可能性あり。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、運動学概論（運動・運動学・運動力学とは）						佐川裕也
2	運動の面と軸、関節自由度						
3	基本的運動①（運動の種類・各関節の運動）						
4	基本的運動②（運動の種類・各関節の運動） ※実技予定						
5	姿勢と肢位（人体の名称・運動連鎖・代償運動）						
6	重心と重心線、ランドマーク						
7	スティックピクチャー（姿勢観察）						
8	支持基底面と関節の構造（身体重心・モーメント）						
9	関節の種類（部位・軸・可動）						
10	関節包内運動（凹凸の法則）と結合組織						
11	骨格筋と筋収縮のメカニズム①（骨格筋の解剖や収縮様式）						
12	骨格筋と筋収縮のメカニズム②（収縮と運動単位・サイズの原理・長さ-張力曲線）						
13	運動力学①（仕事と力学の法則・エネルギー・ベクトルと分解）						
14	運動力学②（モーメント・トルク）						
15	生体力学的てこ、滑車、まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・運動学は、解剖学や生理学の知識が必要で、臨床実習や国家試験では基礎となる科目です。 ・予習や復習することが望ましいです。 ・授業の進行によって、講義内容および実技内容、順序が変更になることがあります。							
テキスト ・基礎運動学 第7版（医歯薬出版） ・必要に応じて資料を配布します。							
参考書 ・筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版（医歯薬出版）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅱ		講義・演習	通年	PT1年	2単位	60時間	目黒絵美
教 育 目 標	【一般目標】 運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、理学療法士の理論的基盤をなす重要な基礎科目である。本講義では、1. 身体運動に関する基礎的知識、2. 運動学に必要な力学、3. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係、4. 姿勢保持と歩行動作の特徴について理解することを目標とする。						
	【行動目標】 1. 筋骨格系の構造・機能・名称を説明することが出来る。 2. 基本肢位および正常歩行を観察し、記述することが出来る。 3. 図表から対象者の動作を推測出来る。						
成績評価方法	定期試験にて総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、力学の基礎・用語説明						目黒絵美
2	生体力学の基礎						
3	肩複合体の運動学①						
4	肩複合体の運動学②						
5	肘・前腕複合体の運動学①						
6	肘・前腕複合体の運動学②						
7	手関節・手指の運動学①						
8	手関節・手指の運動学②						
9	股関節の運動学①						
10	股関節の運動学②						
11	膝関節の運動学①						
12	膝関節の運動学②						
13	足関節の運動学①						
14	足関節の運動学②						
15	脊柱・体幹の運動学						
16	脊柱・体幹の運動学						
17	呼吸運動、顔面と頭部の運動学						
18	立位姿勢						
19	運動学実習②アライメント評価						
20	起立・着座動作						
21	運動学実習③立ち上がり動作						
22	正常歩行①歩行周期						
23	正常歩行②ロッカー機能について						
24	正常歩行③外的・内的モーメント						
25	正常歩行④異常歩行						
26	動作分析①						
27	動作分析②						
28	グループ発表						
29	バランス評価、階段昇降						
30	運動学習						
履修者へのコメント ※45時間以上の自己学習を要する。							
テキスト ・基礎運動学 第7版（医歯薬出版） ・筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版（医歯薬出版）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床運動学		演習	前期	PT2年	1単位	45時間	長岡洋平
教 育 目 標	【一般目標】 1. 健常成人の基本動作（寝返り・起き上がり・立ち上がり・歩行）のメカニズムを理解する。 2. 代表的疾患における姿勢や動作の特徴を知る。						
	【行動目標】 1. 正常動作を自らの身体で体験し、再現することが出来る。 2. 基本動作の観察ポイントを上げることが出来る。 3. 基本動作の相分けを行い、各相毎に動的アライメントの描画と運動学的記述が出来る。						
成績評価方法	定期試験（筆記）、課題レポート（提出物）で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	理学療法士における動作分析の位置づけ						長岡洋平
2	動作分析の進め方						
3	姿勢の評価 - 臥位・坐位・立位 -						
4	寝返り動作 - 健常成人の動作理解 -						
5	寝返り動作 - 動作観察と相分け -						
6	起き上がり動作① - 健常成人の動作理解（非回旋パターン） -						
7	起き上がり動作② - 健常成人の動作理解（回旋パターン） -						
8	起き上がり動作 - 動作観察と相分け -						
9	立ち上がり動作 - 健常成人の動作理解 -						
10	立ち上がり動作 - 動作観察と相分け -						
11	正常歩行の理解						
12	基本動作のまとめ						
13	バイオメカニクスの基礎						
14	バランス能力						
15	片麻痺患者の姿勢とバランスの特徴						
16	片麻痺患者の基本動作の特徴						
17	パーキンソン病の姿勢と動作の特徴						
18	運動失調症の姿勢と動作の特徴						
19	運動器疾患の姿勢と動作の特徴						
20	高齢者の姿勢と動作の特徴						
21	歩行分析演習① 中枢神経疾患						
22	歩行分析演習② 運動器疾患						
23	発表会・授業のまとめ						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 動作分析は理学療法士にとって重要なスキルの1つです。実技や演習を多く取り入れて、健常成人の基本動作を理解していただきたいと思います。また、授業内では患者動画も提示し、疾患特有動作の理解も深めていきます。							
テキスト 標準理学療法学 臨床動作分析（医学書院） ※毎回、授業プリントあり							
参考書 ・動作分析 臨床活用講座ーバイオメカニクスに基づく臨床推論の実践（メジカルビュー社） ・筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版（医歯薬出版株式会社）							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	II 専門基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
	14単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
病理学		講義	前期	PT1年	1単位	30時間	福井謙二
教 育 目 標	【一般目標】 1. 全身の各臓器に共通な病変を分類し理解する。 2. 疾病の原因と、それによって生じる形態学的な変化を理解し、さらに、どのような機能的障害が引き起こされるかを理解する。 3. 各臓器・系統別に疾病の成り立ちについて理解する。 【行動目標】 1. 疾病の原因について説明できる。2. 先天異常、奇形について説明できる。3. 退行性病変について説明できる。4. 進行性病変について説明できる。5. 循環障害について説明できる。6. 炎症について説明できる。7. 免疫について説明できる。8. 感染症について説明できる。9. 腫瘍について説明できる。10. 死因統計について説明できる。11. 循環器系の疾患について説明できる。12. 血液、造血器系の疾患について説明できる。13. 呼吸器系の疾患について説明できる。14. 消化器系の疾患について説明できる。15. 腎、泌尿器系、生殖器系、乳腺の疾患について説明できる。16. 神経系の疾患について説明できる。17. 運動器系の疾患について説明できる。						
	成績評価方法 定期試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	病理学の意義。病理診断の方法。病因論。病変の種類						福井謙二
2	先天異常，奇形						
3	退行性病変，代謝障害						
4	進行性病変						
5	循環障害						
6	炎症，免疫						
7	感染症						
8	腫瘍，死因統計						
9	循環器系の疾患						
10	血液，造血器系の疾患						
11	呼吸器系の疾患						
12	消化器系の疾患						
13	腎，泌尿器，生殖器系，乳腺の疾患						
14	神経系の疾患						
15	運動器系の疾患						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・病理学の理解を深めるためには，解剖学や生理学などの基礎医学を十分理解することが重要である。 ・テキストは授業で使用する。							
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 大橋健一，谷澤 徹，藤原正親，柴原純二著 (医学書院)							
参考書 なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床心理学		講義	後期	PT1年	1単位	15時間	松平友見
教 育 目 標	【一般目標】 人間の異常心理、その評価および治療技法に関する基本的知識を習得する。 【行動目標】 1. 異常心理（精神症状）の種類と特徴を理解し、説明することができる。 2. 心理的アセスメントの方法を理解し、説明することができる。 3. 心理療法・援助技法を理解し、説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	臨床心理学概論						松平友見
2	異常心理学						
3	心理的アセスメント						
4	精神分析①						
5	精神分析②						
6	認知行動療法①						
7	認知行動療法②						
8	クライアント中心療法						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 心理学(前期)で学んだ知識をもとに、こころの障害や不適応、心理的アセスメント、治療や援助の手法について学びます。							
テキスト 中川 明仁ほか（編著）. (2024). 心理学・臨床心理学（Crosslink basic リハビリテーションテキスト）. メジカルビュー社.							
参考書 はじめて出会う心理学 第3版 長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ, 2020）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内科学		講義・演習	後期	PT1年	1単位	30時間	田崎裕紀
教 育 目 標	【一般目標】 内科学的疾患の病態・生理の特性を知りリハビリテーション専門職としての知識を培う。 【行動目標】 1. 主要疾患に対する病態を理解し、説明できる。 2. 内科学的疾患に対する医学的治療をリハビリテーション専門職として支援できる内容を理解し、説明できる。						
成 績 評 価 方 法	国家試験形式の客観試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	第1章 内科診療の実際；診療の基本						田崎裕紀
2	第2章 呼吸器疾患；解剖と生理、症候						
3	第2章 呼吸器疾患；検査、主な疾患						
4	第3章 循環器疾患；解剖と生理症候						
5	第3章 循環器疾患；症候、検査						
6	第3章 循環器疾患；主な疾患						
7	第4章 消化管疾患；解剖と生理、症候						
8	第4章 消化管疾患；検査、主な疾患						
9	第5章 肝・胆・膵疾患；解剖と生理、症候、主な疾患						
10	第5章 肝・胆・膵疾患；主な疾患						
11	第8章 腎・泌尿器疾患；解剖と生理						
12	第8章 腎・泌尿器疾患；症候、主な疾患						
13	第12章 感染症；解剖と生理						
14	第12章 症候、主な疾患						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト なるほどなっとく！内科学 改訂第3版（南山堂）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
整形外科科学		講義・演習	後期	PT1年	1単位	30時間	山下晶子
教 育 目 標	【一般目標】 人体の運動器官にかかわる疾患の診断と治療, 整形外科分野でのリハビリテーションについての知識を身につける。 【行動目標】 総論として骨・関節, 神経・筋肉の機能解剖、病態および運動評価や検査について学び, 各論として各疾病疾患（炎症、内分泌性、退行性、先天性、循環器、神経・筋肉、脊椎）と外傷性疾患（骨折、脊髄損傷、外傷性疾患、スポーツ障害、熱傷、切断および離断）について学ぶ。						
成績評価方法	定期試験、期末レポートで総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	整形外科基礎知識 1：骨・関節						山下晶子
2	整形外科基礎知識 2：神経、骨・関節・神経の病態生理						
3	運動器および身体機能の評価						
4	運動器および身体機能の検査法						
5	一般的整形外科的治療法：保存療法/手術療法/理学・作業療法						
6	炎症性疾患：感染性・非感染性疾患・膠原病						
7	代謝・内分泌性疾患、退行性疾患						
8	先天性骨・関節疾患、循環障害と壊死性疾患						
9	骨・軟部腫瘍、神経・筋疾患						
10	骨折						
11	脊椎の疾患						
12	脊髄損傷、関節における外傷性疾患						
13	末梢性神経における外傷性疾患						
14	熱傷・凍傷、切断および離断・義肢						
15	スポーツ障害						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 毎回の教科書の該当部位を読んで予習してください。不十分な点は次回に質問時間を設定します。							
テキスト 標準整形外科科学 第16版（医学書院）							
参考書 ・授業内で資料を配布します。 ・解剖学の教科書を参考にしてください。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
神経内科学		講義・演習	後期	PT1年	1単位	30時間	星野光宏
教 育 目 標	【一般目標】 リハビリテーションの対象として神経疾患の頻度は最も高く、リハビリテーションスタッフやそれを目指す学生にとって重要な分野である。神経内科学の講義では、神経解剖・神経生理などの基礎医学を学習したあと、それに基づいた神経症候学を学習する。その後、神経内科学各論では、神経内科のほか脳外科・小児神経科などであつかう神経疾患全般について学習する。そのため上記の内容を理解できる、説明できることを目標とする。						
成 績 評 価 方 法	定期試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	神経症候①（高次脳機能障害、失語症、失認証、失行症）						星野光宏
2	神経症候②（知的障害・記憶障害・認知症等）						
3	神経症候③（運動失調、意識障害、嚥下障害等）						
4	神経症候④（錐体路徴候、錐体外路徴候、感覚障害、末梢神経症候、自律神経症候）						
5	脳血管障害①						
6	脳血管障害②						
7	脳血管障害③						
8	中枢神経変性疾患						
9	中枢神経脱髄疾患						
10	脳腫瘍						
11	末梢神経障害						
12	筋原性筋委縮疾患						
13	神経感染症疾患						
14	神経疾患合併症						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 解剖学・生理学・病理学など基礎医学の習得が不十分であると神経内科学の履修に支障を来すため、これら前期科目の復習を各自おこなってから講義にのぞむこと。履修範囲が多いため、授業中に説明できなかった項目については各自でテキストに目を通すこと。							
テキスト 病気がみえる⑦ 「脳・神経」 第2版 （メディックメディア）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神医学		講義	後期	PT1年	1単位	15時間	高橋章郎
教 育 目 標	【一般目標】 国家試験合格を念頭に置いて、精神医学全般について基礎事項を学び、各精神疾患を理解・考察する。 【行動目標】 精神疾患を科学的・医学的視点から理解することで、ともすれば陥ってしまうこともある偏見を排除し、公正な視点、及び態度を以て精神疾患罹患者に相対することを目指す。						
成 績 評 価 方 法	定期試験の成績にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	精神医学紹介／気分障害						高橋章郎
2	心身症／統合失調症						
3	老年期精神障害／摂食障害						
4	神経症／睡眠障害						
5	てんかん／人格障害						
6	薬物・アルコール依存症						
7	児童期・青年期の精神障害						
8	試験に向けて総復習						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。							
テキスト 標準理学療法学・作業療法学 精神医学 専門基礎分野 第4版増補版（医学書院）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
小児科学		講義	後期	PT1年	1単位	15時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 小児の障害を引き起こす主な疾患の原因、病態生理、徴候、診断と治療を学ぶ。						
	【行動目標】 1. 疫学、予後について説明できる。 2. 病因、症候について説明できる。 3. 検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について説明できる。 4. 小児の障害を引き起こす一般的疾患について説明できる。 5. 小児に関連する過去の国家試験を解くことができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験で判定する。						
回	内 容						担当者
1	小児科学概論、新生児・未熟児、国家試験解説						小島正義
2	脳性麻痺、二分脊椎、国家試験解説						
3	ペルテス病、筋ジストロフィー、国家試験解説						
4	循環器疾患、国家試験解説						
5	呼吸器疾患、国家試験解説						
6	免疫・アレルギー疾患						
7	発達障害、国家試験解説						
8	重症心身障害児、医療的ケア児、まとめ						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 ・パワーポイント資料で講義を進めます。・その都度、関連する過去の国家試験問題の解説も行うため、事前の国試対策としても意識してください。・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、必ず前回授業の資料は持ってきてください。・小テストを行うこともありますので、前回までの授業の復習は行ってください。							
テキスト 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版 （医学書院）							
参考書 小児科学は内科学と重複する点も多く、内科学の教科書を参考書として活用することにより、より理解が深まると思います。また、必要に応じて紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床医学と画像診断		講義・演習	後期	PT1年	1単位	30時間	田邊康二
教 育 目 標	【一般目標】 リハビリテーションの実践に必要な脳血管疾患・整形疾患等の基礎知識と画像診断に必要な基礎知識をを身に着けることができる。						
	【行動目標】 1. 脳血管疾患・整形疾患等の基礎的な疾患の概要について説明することができる。 2. 画像診断に関する過去の国家試験を解くことができる。 3. リハビリテーション実践において、画像診断による基礎疾患の予後やリスクについて説明することができる。						
成績評価方法	定期試験で判定する。						
回	内容						担当者
1	画像診断学総論（リハビリテーションにおける画像診断の重要性）						田邊康二
2	骨・関節の画像の診かた（レントゲン）						
3	正常画像の見方と骨・関節疾患①（上肢①）						
4	正常画像の見方と骨・関節疾患②（上肢②）						
5	正常画像の見方と骨・関節疾患③（体幹）						
6	正常画像の見方と骨・関節疾患④（下肢①）						
7	正常画像の見方と骨・関節疾患⑤（下肢②）						
8	正常画像の見方と骨・関節疾患⑥（下肢③）						
9	脳の基本的知識、脳画像（CT・MRI）とその症状①（各スライス）						
10	脳画像とその症状②（各スライス）						
11	脳画像とその症状③（各スライス）						
12	脳画像とその症状④（各スライス）						
13	脳画像（CT・MRI）のまとめ①						
14	脳画像（CT・MRI）のまとめ②						
15	総括						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・パワーポイント資料中心で講義を進める。・復習する場合もあるため、必ず配布した講義資料は持参のこと。・解剖を画像で理解するため白紙を配布し絵を描く、色を塗る作業をするのでカラーペンを複数用意のこと。・スマホやPC（タブレットも含む）は許可がある場合以外に本科目の授業中は利用しないこと。・授業中に教員の指示に従わない場合は退出を指示する場合があります。速やかに指示に従うこと。							
テキスト リハビリテーション医療に活かす画像のみかた（南江堂） 必要に応じて資料を配布する。							
参考書 指定なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年医学		講義・演習	後期	PT2年	1単位	30時間	田崎裕紀
教 育 目 標	【一般目標】 老年期における病態、疾患、外傷の特性を知りリハビリテーション専門職としての知識を培う。 【行動目標】 1. 老年期障害の現状を知る。 2. チーム医療の中でのリハビリテーションチームの役割を知る。 3. リハビリテーション職としての老年期障害に対する医学的側面から治療・支援できることを知る。						
成績評価方法	国家試験形式の客観試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	老化と老年病の考え方						田崎裕紀
2	加齢に伴う変化；生理的機能						
3	加齢に伴う変化；運動機能						
4	加齢に伴う変化；精神心理面						
5	高齢者の定義および人口動態						
6	高齢者との接し方・機能評価						
7	栄養状態の評価・臨床検査値の評価・薬物療法の考え方						
8	高齢者に多い症候と老年症候群						
9	循環器疾患						
10	呼吸器疾患；嚥下障害						
11	神経疾患；Parkinson病						
12	認知症と精神疾患；Alzheimer病						
13	骨粗鬆症と運動機能疾患						
14	高齢者をとりまく環境						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト 標準理学療法学 作業療法学 専門基礎分野 老年学 第6版（医学書院）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション医学		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	後藤恵祐
教 育 目 標	【一般目標】 代表的な病態、疾患などにより生じた機能障害を理解し、残存した障害を克服しようとする人々の活動を支援する医学分野の基本を知る。						
	【行動目標】 1. リハビリテーション医学を構造的に捉える。 2. チーム医療の中での理学療法士の役割を知る。 3. 理学療法士として代表的疾患の特性から評価・治療手段について学ぶ。						
成績評価方法	定期試験および実技で総合的に判断する。 ※2/3以上の履修と総合成績60点以上の者に単位を付与する						
回	内 容						担当者
1	リハビリテーションの理念						後藤恵祐
2	障害の捉え方とチーム医療						
3	リハビリテーション医療の流れ						
4	廃用症候群 / 代表的な疾患：運動器疾患						
5	代表的な疾患：脳血管障害						
6	【演習】歩行補助具のセッティングと歩行練習 / 【演習】片麻痺の動作訓練						
7	【演習】片麻痺患者の動作訓練 / 【総合演習】ケーススタディ						
8	【総合演習】ケーススタディ						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 リハビリのゴールは、病気を治すことではなく「生活を取り戻すこと」です。この講義では、解剖学や疾患の知識を、どうやって目の前の人の「笑顔」に変えるかを学びます。最終回、皆さんで一人の人生をデザインします。理学療法の面白さを体感してください。※授業の進捗具合で変更する場合があります。							
テキスト							
参考書 ・PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション医学（羊土社） ・その他、必要に応じて講義内で紹介する							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と薬理		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 リハビリテーションに関連する疾患における薬物・薬理の基礎的な知識を身に付ける。 【行動目標】 1. 各疾患における代表薬物、作用機序等について説明することができる。 2. 薬理学に関連する過去の国家試験を解くことができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験で判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、薬理学の定義、薬の主作用・副作用、薬理学を学ぶ意義等						小島正義
2	薬物の体内の流れ、肝臓・腎臓等の役割、関連国試解説						
3	パーキンソン氏病とその薬、関連国試解説						
4	統合失調症とその薬、関連国試解説						
5	認知症とその薬、関連国試解説						
6	薬物依存、関連国試解説						
7	慢性関節リウマチとその薬、関連国試解説						
8	臨床に出てくる薬、関連国試解説、まとめ						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 ・パワーポイント資料で講義を進めます。・その都度、関連する過去の国家試験問題の解説も行うため、事前の国試対策としても意識してください。・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、必ず前回授業の資料は持ってきてください。							
テキスト リハベリック 薬理学・臨床薬理学 第2版（医歯薬出版株式会社）							
参考書 ・シンプル薬理学 改訂第6版 （南江堂） ・随時、必要に応じて紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
予防医学と公衆衛生		講義	前期	PT1年	1単位	30時間	佐川裕也
教 育 目 標	【一般目標】 1. 疾病予防と健康増進の重要性を理解し、時代に合わせた役割を見いだせる。 2. 生活習慣病の効果的な予防改善を理解し、高齢者に活かした新しい事業を考えていく。 【行動目標】 1. 疾病予防、健康増進の概念、健康づくり施策、健康サービスを理解することができる。 2. 公衆衛生分野における自分の役割を考え、高齢化時代の新しい事業を考えることができる。 3. ライフステージに合わせた健康問題の対処法を考えることができる。						
成績評価方法	定期試験にて総合的に判断する予定です。 ※進捗状況により、小テストを実施する可能性あり。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、公衆衛生学・社会医学						佐川裕也
2	疫学と衛生統計						
3	生活環境と疾病コントロール						
4	ライフサイクルと健康サービス（母子保健、学校保健、産業保健）						
5	ライフスタイルと健康サービス（食習慣、運動、休養、メンタルヘルス）						
6	生活習慣病予防						
7	チームで取り組むヘルスプロモーション						
8	公衆衛生とリハビリテーション						
9	保健統計資料の活用						
10	食習慣						
11	運動、休養、メンタルヘルス、健康リスク行動						
12	母子保健、学校保健						
13	産業保健、成人保健						
14	高齢者保健、介護予防						
15	QOLを高めるリハビリテーション						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・公衆衛生は、これからの医療・介護にとっても重要で注目されている科目です。 ・授業の進行によって、講義内容および実技内容、順序が変更になることがあります。							
テキスト ・医療職のための公衆衛生・社会医学 第10版 ・必要に応じて資料を配布します。							
参考書 ・国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 編：厚生労働統計協会 ・理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション 編集 日本ヘルスプロモーション理学療法学会（南江堂） ・公衆衛生がみえる 2024-2025 第6版							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
救命救急の基礎		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	石塚光宣
教 育 目 標	【一般目標】 1. 救急医療の特徴を理解できる。 2. 救急医療に求められる予測性をもった病態アセスメントができる。 3. 災害医療の特徴を理解できる。						
	【行動目標】 1. 救急・災害医療体制の基礎を理解できる。 2. 救急医療システムを理解できる。 3. 救急医療における主要な疾患の病態を理解できる。 4. AEDなど適切に使用することができる。						
成 績 評 価 方 法	レポートにて総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	救急医療の沿革と救急業務の現状と課題について						石塚光宣
2	救急受け入れ体制						
3	心肺蘇生法（成人）						
4	心肺蘇生法（乳児・小児）						
5	AED取り扱い						
6	異物除去						
7	創傷・止血						
8	災害医療・心肺蘇生法まとめ						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。							
テキスト							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と栄養		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	本多友美恵
教 育 目 標	【一般目標】 『人体と栄養』では「栄養の意義」・「栄養素の働き」・「疾患別栄養療法」・「ライフステージ別の栄養」・「スポーツ栄養」について学ぶ。コメディカルの知識としてだけではなく、栄養の力について理解を深め、毎日の食事の大切さを一人の人として向き合い、自身の食生活に活かせるようになる。そして健康の保持・増進や疾病の予防における栄養の役割を正しく理解し、健康な生涯を送るために適切な食事について考え、実践できるようになる						
	【行動目標】 毎日の3食の食事で、自身の健康のために不足するもの、過剰なものを考えながら食べることができるようになる。また将来医療現場で患者の栄養状態、リハビリにおける栄養の重要性を理解した医療行為が行なえるよう、基本的な知識を身につける。						
成績評価方法	定期試験および小テストで評価する。						
回	内 容						担当者
1	栄養とは・エネルギー						本多友美恵
2	栄養素の基礎知識①（炭水化物、たんぱく質、脂質）						
3	栄養素の基礎知識②（ビタミン、ミネラル）						
4	代謝の仕組み						
5	疾患別食事療法①						
6	疾患別食事療法②						
7	ライフステージ別栄養						
8	運動と栄養						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 毎日みなさんが食べる食事、それは栄養学の宝庫です！こんなにも生活に密着している科目があるでしょうか？この講義を通して、食事の大切さを知ってもらいたい！！日々の食生活への疑問、食品や栄養素への質問をお待ちしています！！							
テキスト 栄養の基本がわかる図解事典 改訂版（成美堂出版）							
参考書							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	II 専門基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	保健医療福祉とリハビリテーションの理念
	4単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション概論		講義	前期	PT1年	1単位	30時間	星野光宏
教 育 目 標	【一般目標】 リハビリテーション（rehabilitation）を正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。						
	【行動目標】 1. リハビリテーションの概念・歴史、関連専門職の役割・連携、クライアント中心の医療について説明できる。 2. リハビリテーションにおける専門職の役割、現状、今後の課題について説明できる。 3. 理学療法（士）とは何か、理学療法の具体的内容や業務範囲について説明できる。 4. 専門職としての理学療法士に関する臨床的思考過程、理学療法実践過程について説明できる。 5. 理学療法士の教育体系について説明できる。 6. 理学療法士に必要な管理及び運営の方法について説明できる。						
成績評価方法	定期試験および提出物・発表などを総合的に判断する。						
回	内容						担当者
1	リハビリテーションとは						星野光宏
2	リハビリテーションの概念・理念・定義						
3	健康・疾病・障害の概念と分類						
4	障害論						
5	廃用症候群とは						
6	リハビリテーションの過程・諸段階						
7	チームアプローチ、ADL・QOLの概念						
8	理学療法の歴史・定義						
9	理学療法の役割・過程						
10	理学療法士に求められる使命と倫理						
11	理学療法士に求められる資質1						
12	理学療法士に求められる資質2						
13	理学療法士の職能						
14	理学療法士に関連する法律						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト 改訂第4版（南江堂）							
参考書 随時紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
職業関連リハビリテーション学		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	関美行
教 育 目 標	【一般目標】 障害者がより良く働くために理学療法士として支援できることを理解できる。 【行動目標】 地域における職業リハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物で総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	地域における職業リハビリテーションとは						関美行
2	職業リハビリテーションにおける理学療法士の役割とは						
3	理学療法のプロセス						
4	障害者就労支援とは、障害者就労支援の必要性とは						
5	障害者就労支援の共通目標						
6	障害者就労支援のポイント						
7	お仕事の実際						
8	障害就労支援の実際、就労定着支援のポイント/定期試験対策						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 病気を持った人と関わるとはどんなことか、ご自身が理学療法士としてどのように向き合って働くかを考えながら授業に参加してください。							
テキスト							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域マネジメント論		講義	前期	PT2年	1単位	15時間	後藤恵祐
教 育 目 標	【一般目標】 地域の理学療法の役割や介護保険の制度を理解する。患者の全体像をICFを用いて把握し、日常生活を安全安楽に暮らせるように理学療法士として何をすべきかを考え、理解する。 【行動目標】 1. 介護保険認定のしくみ、特定疾患、対象者などの面から理解する。 2. ICFの双方向性含む概要について理解する。 3. 介護保険適用の貸与・給付の福祉用具について理解する。 4. 地域理学療法の各方面について、その法制度についても理解する。						
成績評価方法	定期試験および実技で総合的に判断する。 ※2/3以上の履修と総合成績60点以上の者に単位を付与する						
回	内 容						担当者
1	地域理学療法とは						後藤恵祐
2	制度の理解						
3	福祉用具の利用						
4	住環境の整備						
5	地域理学療法の実際：高齢						
6	日常生活活動（ADL）の拡大						
7	グループワーク						
8	グループワーク発表						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 2年後期に「地域理学療法実習」を控えているので非常に重要な科目になります。介護保険と医療保険の仕組みと、理学療法士の役割の違いを理解することが大切です。 授業の進行具合により上記記載されている予定を変更する場合があります。							
テキスト Crosslink 理学療法学テキスト 地域理学療法学（メジカルビュー社）							
参考書 必要に応じて講義内で紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
多職種連携演習		演習	通年	PT1年	1単位	45時間	平和台病院 オムニバス
教 育 目 標	【一般目標】 チーム医療の概念と基礎知識を学び、これを理解することができる。 リハビリテーションに携わる他職種の業務内容や役割を知り相互に連携に必要な素養を養う。 【行動目標】 1. チーム医療の概念を説明することができる。 2. チーム医療を担う各構成員の専門性と役割を説明することができる。 3. チーム医療を担う各構成員とのあるべき連携について説明することができる。 4. チーム医療における理学療法士・作業療法士の業務や役割を説明できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	急性期病棟(内科)の業務・連携						平和台 病院 オムニバス
2	急性期病棟(整形外科)の業務・連携						
3	地域包括ケア病棟の業務・連携						
4	回復期病棟の業務・連携						
5	外来リハビリの業務・連携						
6	介護部門 デイケアの業務・連携						
7	訪問リハビリの業務・連携						
8	言語聴覚士の業務・連携						
9	NSWの業務・連携						
10	管理栄養士の業務・連携						
11	薬剤師の業務・連携						
12	介護支援相談員の業務・連携						
13	臨床工学技士の業務・連携①						
14	臨床工学技士の業務・連携②						
15	看護師の業務・連携①						
16	看護師の業務・連携②						
17	看護師の業務・連携③						
18	看護師の業務・連携④						
19	看護師の業務・連携⑤						
20	看護師の業務・連携⑥						
21	リハビリテーション科の地域活動						
22	リハビリテーション科と他職種の書類						
23	リハビリテーションマネジメント						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・リハビリテーション職と他職種それぞれの業務内容・連携を学ぶことで、自身が目指す職種の役割について深く理解できることを期待します。 ・授業の進行度合いによって、講義内容及び順序を変更することがあります。							
テキスト なし(講義内で適宜資料配布を行う)							
参考書 講義内で必要に応じて紹介をする。							

	III 専門分野
I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	基礎理学療法学
	6単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
障害評価学Ⅰ		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	長岡洋平
教 育 目 標	【一般目標】 1. 評価実習に向けて各検査の意義と繋がりを理解する。 2. 医療人として基本的なコミュニケーション能力・判断力・態度を身につける。 【行動目標】 神経系理学療法に必要な検査測定手技・医療面接の技能習得を目指す。						
成 績 評 価 方 法	確認テスト(口頭試問・実技)・レポート・定期試験(筆記)で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション/コミュニケーション技法						長岡洋平
2	麻痺側運動機能の評価(理論・実技)						
3	筋緊張検査(触診・被動)/関節可動域検査						
4	腱反射・病的反射						
5	感覚検査						
6	高次脳機能障害(半側空間無視)						
7	症例検討①(脳血管障害)						
8	検査・測定の振り返り①(BRS・筋緊張検査)						
9	症例検討②(脳血管障害)						
10	検査・測定の振り返り②(反射検査・感覚検査)						
11	バランス検査						
12	運動失調症検査						
13	症例検討③(運動失調症)						
14	検査・測定の振り返り③(運動失調症検査)						
15	ADLと障害構造のまとめ(ICF)/授業のまとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 実習では、適切な検査測定を行なうことだけでなく、学生として正しい接し方や心理的配慮、誘導ができることも大切です。反復した実技練習を通して、正確な検査技術の他、態度や患者対応などについても指導していきます。							
テキスト ・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 ・理学療法評価学(金原出版株式会社) *毎回、授業プリントあり							
参考書 ・標準理学療法学 神経理学療法学(医学書院) ・ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
障害評価学Ⅱ		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	後藤恵祐
教 育 目 標	【一般目標】 1. 整形外科疾患とそれに関連する理学療法評価の意義と目的を理解する。 2. 整形外科疾患患者に対してのリスク管理を理解する。。 【行動目標】 1. 各整形外科疾患に対する理学療法評価について列挙することができる。 2. 各整形外科疾患に対して、適切な理学療法評価を説明し実践することができる。 3. 臨床場面を想定し医療人としての適切な態度・接遇を実践できる。						
成績評価方法	定期試験および実技で総合的に判断する。 ※2/3以上の履修と総合成績60点以上の者に単位を付与する						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション 股関節疾患 機能評価と整形外科テスト						後藤恵祐
2	股関節疾患 機能評価と整形外科テスト						
3	膝関節疾患 機能評価と整形外科テスト						
4							
5	足関節疾患 機能評価と整形外科テスト						
6							
7	頸部疾患・胸郭出口症候群 機能評価と整形外科テスト						
8							
9	体幹（腰部・仙腸関節）疾患 機能評価と整形外科テスト						
10							
11	肩関節・肘関節・手関節疾患 機能評価と整形外科テスト						
12							
13	各整形外科疾患に対する理学療法評価						
14							
15	実技試験						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・代表的な整形外科疾患に対する理学療法の基本的な知識と技術を学んでいただきます。 ・講義と実習を通じて臨床現場で役立てられるスキルを身につけていきましょう。 ・授業の進行具合により講義内容を変更する場合があります。							
テキスト 理学療法評価学 第6版補訂版（金原出版）							
参考書 標準整形外科学、その他必要に応じて授業内で紹介する							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
基礎理学療法学		講義	後期	PT1年	2単位	30時間	目黒絵美
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法を科学的に理解するとともに、臨床において効果的な理学療法を実践する上で必要となる基礎知識を身に付ける。 【行動目標】 1. 理学療法における基礎知識について、専門用語を用いてまとめられる。 2. 上記内容を文章・口頭説明にて他者へ伝えることができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験にて総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	理学療法士の役割						目黒絵美
2	疼痛						
3	可動域制限						
4	筋力低下						
5	組織修復のメカニズム						
6	持久力低下						
7	骨折						
8	末梢神経障害						
9	運動麻痺						
10	感覚障害						
11	協調運動障害						
12	高次脳機能障害						
13	認知機能低下						
14	脳血管疾患						
15	整形外科疾患						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト 理学療法ハンドブック 第1巻 理学療法の基礎と評価 改定第4版（協同医書出版社）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動療法学総論 I		講義	後期	PT1年	1単位	30時間	牛丸翔太
教 育 目 標	【一般目標】 運動療法学の基礎理論と技術に関して理解する。 【行動目標】 1. 運動療法学の基礎理論と運動療法の基本的技術に関して理解できる。 2. 病態や障害に応じた患者の運動機能について予測し基礎的な運動療法を実施できる。 3. 解剖学、生理学、運動学の知識を深め、運動療法実施に関するリスク管理ができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験で総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、運動療法の概念						牛丸翔太
2	関節可動域制限の原因と改善①（理論・評価）						
3	関節可動域制限の原因と改善②（治療戦略）						
4	筋力・筋持久力の改善						
5	ストレッチング①（総論・前処置）						
6	ストレッチング②（各種手技・臨床応用）						
7	関節に対する治療						
8	運動学習						
9	体力の改善（有酸素能力・筋持久力・ADL体力）						
10	基本動作の獲得・改善						
11	姿勢観察・バランスの概念と評価（TUG・FRT含む）						
12	歩行の獲得・改善						
13	廃用症候群に対する運動療法						
14	痛みの軽減・除去						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・臨床実習に向けて、運動療法の基礎となる知識・技術の臨床への適応について解説する。 ・授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがある。							
テキスト 運動療法学 改訂第2版（金原出版）							
参考書 ・各種教科書 ・その他、各講義で適宜資料配布を行う							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動療法学総論Ⅱ		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	田邊康二
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法の中核をなす運動療法を十分に理解するために筋、骨格構造、神経系から運動学などの基礎を理解する。各種障害に対する運動療法の理論と実践に関して学び、運動療法の基礎から応用までの知識を身につける。						
	【行動目標】 1. 各運動療法(筋力増強練習、筋ストレッチ、関節可動域練習など)の目的と効果を理解する。 2. 基本的な種々の障害に対し適切な運動療法を選択し、実施できる。 3. 運動療法を実施するにあたり、そのリスク管理ができる。						
成績評価方法	定期試験にて総合的に判断する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション						田邊康二
2	関節可動域練習総論						
3	関節可動域練習①（上肢）						
4	関節可動域練習②（下肢）						
5	筋力増強練習総論						
6	筋力増強練習（上肢・下肢）						
7	ストレッチング総論						
8	ストレッチング①（上肢）						
9	ストレッチング②（下肢）						
10	ストレッチング③（体幹）						
11	関節モビライゼーション総論						
12	関節モビライゼーション①（上肢）						
13	関節モビライゼーション①（下肢）						
14	関節モビライゼーション②（下肢）						
15	総括						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・関連する分野の解剖学および生理学の予習しておくこと。・授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがある。・スマホやPC（タブレットも含む）は許可がある場合以外に本科目の授業中は利用しないこと。・授業中に教員の指示に従わない場合は退出を指示する場合がある。速やかに指示に従うこと。							
テキスト 必要に応じて資料を配布する。							
参考書 ・理学療法学テキストⅢ「運動療法Ⅰ」第2版（神陵文庫） ・標準理学療法学「運動療法学 総論」第5版（医学書院） など							

	Ⅲ 専門分野
Ⅰ．基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	理学療法評価学
	6単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法評価学Ⅰ		講義	通年	PT1年	2単位	60時間	星野光宏
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定項目について、その目的・意義・内容・手技を理解し、対象者個々人が持つ障害を理解するために必要な知識の習得を目的とする。						
	【行動目標】 1. 理学療法における評価の位置づけを説明できる。 2. 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定の目的と意義を説明することができる。 3. 検査・測定によって得られた情報がどのような意味を持つのか説明することができる。 4. 障害が出現するメカニズムについて説明できる。						
成績評価方法	定期試験、実技試験、提出物で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション/総論 1						星野光宏
2	総論 2						
3	総論 3						
4	総論 4						
5	バイタルサイン 1						
6	バイタルサイン 2						
7	バイタルサイン 3						
8	バイタルサイン 4						
9	バイタルサイン 5						
10	形態測定/四肢長周径 1						
11	形態測定/四肢長周径 2						
12	形態測定/四肢長周径 3						
13	形態測定/四肢長周径 4						
14	形態測定/四肢長周径 5						
15	形態測定/四肢長周径 6						
16	まとめ						
17	関節可動域測定 総論 1						
18	関節可動域測定 総論 2						
19	関節可動域測定 総論 3						
20	関節可動域測定 総論 4						
21	関節可動域測定 上肢 1						
22	関節可動域測定 上肢 2						
23	関節可動域測定 上肢 3						
24	関節可動域測定 上肢 4						
25	関節可動域測定 下肢 1						
26	関節可動域測定 下肢 2						
27	関節可動域測定 下肢 3						
28	関節可動域測定 下肢 4						
29	関節可動域測定 頸部・体幹 1						
30	関節可動域測定 頸部・体幹 2						
履修者へのコメント ※45時間以上の自己学習を要する。 ・評価学の習得には疾病、解剖学、生理学、運動学の知識が必須であるため、復習を怠らないこと。 ・理学療法士にとって最も基本的で実施頻度の高いものとなるため、授業外でも修練に励むこと。							
テキスト ・理学療法評価学 改訂第6版補訂版（金原出版）							
参考書 ・理学療法ハンドブック 改訂第3版 第1巻 ・随時紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法評価学Ⅱ		講義	後期	PT1年	2単位	60時間	山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 1. 正確な徒手筋力検査法を実施し、検査結果から得られる情報を正しく捉えることができる。 2. 基礎知識(筋の起始停止、支配神経等)と検査法の意義を積極的に学習し理解する。 【行動目標】 1. 筋力評価の意義、目的、代表的な測定方法を説明する。 2. 正確な徒手筋力検査方法（MMT）を習得するべく、積極的な姿勢で参加する。 3. 徒手筋力検査法（MMT）に必要な主動作筋を触診する。 4. 徒手筋力検査法（MMT）の各検査を正確に測定する。						
成 績 評 価 方 法	実技試験50％ 筆記試験50％で判定する。なお、実技試験・筆記試験それぞれが6割に満たない場合、そのそれぞれの試験に対して再試験を行うものとする。						
回	内 容						担当者
1	【座学】徒手筋力テストの概要						山崎康幸
2							
3	【実技】頭部・頸部のMMT						
4							
5	【実技】体幹のMMT						
6							
7	【実技】頭部・頸部・体幹のMMTの確認						
8							
9	【実技】肩甲帯（肩甲骨）のMMT						
10							
11	【実技】肩関節のMMT						
12							
13	【実技】肘関節・手関節MMT						
14							
15	【実技】上肢のMMTの確認①						
16							
17	【実技】上肢のMMTの確認②						
18							
19	【実技】股関節のMMT						
20							
21	【実技】膝関節のMMT						
22							
23	【実技】足関節のMMT						
24							
25	【実技】下肢のMMTの確認①						
26							
27	【実技】下肢のMMTの確認②						
28							
29	【座学・実技】全体の復習、実技試験の対策						
30							
履修者へのコメント ※45時間以上の自己学習を要する。							
・ 通常実技の際は肌の露出しやすい半袖・短パン（スパッツ）、ジャージなどで臨むこと。							
・ 実技試験の際は、規定の服装で望むこと ピアス、アクセサリは不可。							
・ 起始停止支配神経運動方向は理学療法特論Ⅰの資料を活用すること。							
テキスト							
新・徒手筋力検査法 原著 第10版 （協同医書出版社）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員							
理学療法評価学Ⅲ		講義	前期	PT2年	2単位	60時間	北村達夫							
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定項目について、その目的・意義・内容・手技を理解し、対象者個々人が持つ障害を理解するために必要な知識の習得を目的とする。													
	【行動目標】 1. 理学療法における評価の位置づけを説明できる。 2. 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定の目的と意義を説明することができる。 3. 検査・測定によって得られた情報がどのような意味を持つのか説明することができる。 4. 障害が出現するメカニズムについて説明できる。													
成 績 評 価 方 法	筆記試験、実技試験、グループワーク、提出物で総合的に判定する。 ただし、筆記試験および実技試験でそれぞれ60%以上の獲得を条件とする。													
回	内 容						担当者							
1	オリエンテーションおよび総論（検査と測定，アセスメント）						北村達夫							
2														
3														
4								意識障害および疼痛検査						
5								感覚検査（表在感覚）						
6														
7														
8								感覚検査（深部感覚）						
9								反射検査（深部腱反射，表在反射）						
10														
11														
12								反射検査（病的反射）および筋緊張検査						
13								筋緊張検査						
14														
15														
16								協調性検査						
17								片麻痺機能検査						
18														
19														
20								片麻痺機能検査						
21								姿勢反射検査						
22														
23														
24								脳神経検査						
25								高次脳機能検査						
26														
27														
28								バランス機能検査						
29								サルコペニア，フレイルの評価						
30														
履修者へのコメント ※45時間以上の自己学習を要する。 ・理学療法士にとって最も基本的で実施頻度の高いものとなるため、授業外でも修練に励むこと。 ・授業内で実技を行う際は、授業に相応しい身だしなみで臨むこと。 ・授業の進行具合により、授業内容および順序を変更することがある。														
テキスト ・理学療法評価学 改訂第6版補訂版（金原出版）														
参考書 ・理学療法ハンドブック 改訂第4版 第1巻 ・ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 ・その他、随時紹介する														

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法画像評価学		講義	前期	PT2年	1単位	15時間	目黒絵美
教 育 目 標	【一般目標】 患者情報の一つとして画像・映像があり近年X線・CT・MRIの画像はリハビリテーション室でも閲覧できるようになり理学療法士もそれらの情報を読み取る知識・技術の習得が必要である。						
	【行動目標】 1. X線・CT・MRIの特徴を理解し、基本的な画像の読み方をできるようにする。 2. 実際の臨床で使用されるX線・CT・MRIの画像をみる。 3. 正常画像と病的画像を比較し評価をする。 4. グループワークをしながら、画像の情報を読み解いていく。						
成績評価方法	定期試験にて総合的に判断する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション、画像の基礎(各画像の特徴)						目黒絵美
2	中枢神経系①						
3	中枢神経系②						
4	中枢神経系③						
5	骨・関節系①						
6	骨・関節系②						
7	骨・関節系③						
8	内部障害(肺炎・心不全)						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。							
テキスト ・リハビリテーション医療に活かす画像のみかた(南江堂) ・理学療法評価学 改訂第6版補訂版(金原出版) ※いずれも1年次に使用していた教科書を使用します							
参考書 参考資料は授業内で紹介します							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	III 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	理学療法管理学
	2単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法管理学		講義	通年	PT3年	2単位	30時間	星野光宏
教 育 目 標	【一般目標】 医療保険・介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。 【行動目標】 1. 医療保険制度、介護保険制度について理解し、説明できる。 2. 職場管理（診療記録と書類管理）について理解し、説明できる。 3. 職場倫理について理解し、説明できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験にて評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション，総論，職業倫理						星野光宏
2							
3	組織体制，業務管理						
4							
5	社会保障制度の中の理学療法，収益構造						
6							
7	人事労務管理						
8							
9	情報・リスク管理						
10							
11	教育・研究管理						
12							
13	チーム医療						
14							
15	経営マネジメントと管理者の資質						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト 特に指定しない。							
参考書 随時紹介する。							

	Ⅲ 専門分野
Ⅰ．基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	理学療法治療学
	20単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員	
運動療法治療学		講義	通年	PT3年	1単位	30時間	山川貴久	
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法に関わる基礎知識・病態生理を理解した上で、関節可動域練習や筋力増強練習をはじめとする様々な運動療法を習得する。 【行動目標】 1. 各運動療法の生理学的作用、実践方法(リスク管理含む)について他者へ説明ができる。 2. 疾患情報・対象者の状態から、科学的根拠に基づいた適切な運動療法を選択できる。 3. 自己・他者・周囲の安全に配慮し、円滑に運動療法を実践できる。 4. 各運動療法の効果判定を適切に行い、必要に応じて修正ができる。							
成 績 評 価 方 法	定期試験にて判定する。							
回	内 容						担当者	
1	運動療法のリスク管理・効力判定、運動療法の実践①(股関節)						山川貴久	
2								
3	運動療法の実践②(膝関節・足関節・足根骨)							
4								
5	運動療法の実践③(肩関節・肘関節・手関節・手根骨)							
6								
7	運動療法の実践④((頭頸部・体幹・胸郭・皮膚運動)							
8								
9	運動療法の実践⑤(総合的实践、全身運動)							
10								
11	運動療法の教育法①							
12								
13	運動療法の教育法②							
14								
15	応用的運動療法							
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・実技中心の授業となるため、適切な状態で授業に臨んでください。臨床的な知識と実践技術の2つが揃って、はじめて適切な運動療法が成立するということを授業で体感していきましょう。 ・来年度の臨床現場へ向け、改めて理学療法の楽しさや勉強の大切さを実感できることを期待します。								
テキスト 運動療法学 改訂第2版 (金原出版株式会社)								
参考書 姿勢と動作の評価からつなげる ストレッチングとエクササイズ 動画と画像で学ぶ段階的な治療介入 (羊土社)								

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
物理療法治療学		講義	前期	PT2年	1単位	15時間	今井健太
教 育 目 標	【一般目標】 1. 物理療法の基礎を学び、物理療法の目的を解剖学的・生理学的に理解する。 2. 物理療法の作用機序、適応・禁忌・実施上の注意点について理解する。 【行動目標】 物理療法を実施するにあたり、物理療法の効果について他者に分かりやすく説明できる能力を身に付ける。						
成 績 評 価 方 法	定期試験で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、物理療法の基礎、リスク管理、疼痛について						今井健太
2	温熱療法Ⅰ・Ⅱ						
3	寒冷療法						
4	水治療法						
5	電気刺激療法Ⅰ・Ⅱ						
6	牽引療法、光線療法						
7	徒手療法、バイオフィードバック療法						
8	振動療法、圧迫療法						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 ・基礎三科目の基礎的な知識も必要となるため物理療法含めて復習を行うこと。 ・授業の進行具合により、授業内容について変更する場合がある。							
テキスト ・標準理学療法学 物理療法学 第6版（医学書院）							
参考書 ・EBM 物理療法 原著第4版（医歯薬出版株式会社） ・エビデンスから身につける 物理療法（羊土社）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
物理療法治療学演習		演習	前期	PT2年	1単位	45時間	今井健太
教 育 目 標	【一般目標】 物理療法の基礎知識をもとに、各疾患に対して安全に適切な物理療法を選択できるよう知識を深め理解する。 【行動目標】 1. 各物理療法の意義や適応・禁忌について具体的に述べることができる。 2. 応用力を身に付け、疾患・症状・身体の状態に合わせて適切な物理療法を選択し実施できる。 3. 物理療法の効果について他者にわかりやすく説明できる能力を身につけ、適切なオリエンテーションから物理療法実施の一連の流れを行うことができる。						
成 績 評 価 方 法	実技試験（OSCE形式）で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、物理療法演習での注意点・リスク管理						今井健太
2	温熱療法（ホットパック、パラフィン）						
3	温熱療法（極超短波療法、超短波療法）						
4	温熱療法（超音波療法）						
5	温熱療法の復習（前後評価含む）						
6	寒冷療法（アイスパック、クリッカー）						
7	寒冷療法（アイスパック、クリッカー）						
8	寒冷療法の復習（前後評価含む）						
9	水治療法						
10	水治療法						
11	電気刺激療法						
12	電気刺激療法						
13	電気刺激療法						
14	電気刺激療法の復習（前後評価含む）						
15	牽引療法						
16	光線療法（レーザー、赤外線）						
17	牽引療法、光線療法の復習（前後評価含む）						
18	徒手療法						
19	徒手療法						
20	振動療法・圧迫療法						
21	疾患別に対する物理療法						
22	疾患別に対する物理療法						
23	試験対策（実技）						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・物理療法で必要な基礎3科目の基礎的な知識の復習を行うこと。 ・授業の進行状況により、授業内容については変更する場合がある。							
テキスト ・標準理学療法学 物理療法学 第6版（医学書院）							
参考書 ・EBM 物理療法 原著第4版（医歯薬出版株式会社） ・エビデンスから身につける 物理療法（羊土社）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
義肢装具学		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	佐川裕也
教 育 目 標	【一般目標】 1. 義肢装具の名称・構造・機能を理解し、義肢装具療法の基礎知識を身につける。 2. リハビリテーションに関わる機器の特性を理解する。 【行動目標】 1. 主要な義肢装具や福祉用具の名称・構造・機能を説明することができる。 2. 義肢装具や歩行補助具のチェックポイントを理解し、患者に合わせて調整することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験にて総合的に判断する。 ※進捗状況によっては、小テストを実施する可能性あり。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション/装具の概論・長下肢装具①						佐川裕也
2	長下肢装具②						
3	短下肢装具						
4	膝装具、靴型装具						
5	腰椎装具、胸椎装具						
6	頸椎装具、側弯症装具						
7	上肢装具						
8	その他装具、歩行補助具、車いす、リフト						
9	義肢の概論・下腿義足(足部パーツ・ソケット)						
10	下腿義足（アライメント）						
11	大腿義足（膝継手）						
12	大腿義足（ソケット）						
13	大腿義足（アライメント）						
14	義手						
15	その他義足、まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・脳卒中や切断患者のリスク管理や理学療法として、義肢装具や福祉用具、歩行補助具は重要です。 ・授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがあります。							
テキスト ・PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版（羊土社） ・義肢装具のチェックポイント 第9版（医学書院）							
参考書 その他の参考資料は授業内で紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
義肢装具学演習		演習	後期	PT2年	1単位	45時間	佐川裕也
教 育 目 標	【一般目標】 1. わが国における切断に至る原因、切断手技を理解する。 2. 義肢装具使用者の基本動作を理解し、理学療法評価に活かすことができる。						
	【行動目標】 1. 断端管理の方法を理解し、手技を実践できる。 2. 基本動作時の代償動作を理解し、問題点を列挙することができる。 3. 義肢装具が基本動作に与える影響を理解する。						
成績評価方法	実技試験、定期試験の結果を総合的に判断する。 ※進捗状況により、小テストを実施する可能性あり。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション/切断部位・手技の選択手法と手技の原則						佐川裕也
2	断端管理と形態測定（実技）						
3	断端管理・弾性包帯の巻き方						
4	弾性包帯の巻き方（実技）						
5	ICとデモンストレーション、ROM- t ・ MMT						
6	ROM- t ・ MMT ・ 周径（実技）						
7	義肢装具装着前後の理学療法（片脚立位まで）						
8	移乗・起居・プッシング（実技）						
9	義肢装具装着前後の理学療法（応用歩行）、保険制度、歩行補助具						
10	松葉杖調整・歩行観察（実技）						
11	参考文献と論文検1①						
12	参考文献と論文検索②（グループワーク）、4点杖調整（実技）						
13	参考文献と論文検索③（グループワーク）						
14	グループワーク発表						
15	その他車椅子と各種パーツ						
16	シーティングとフィッティング						
17	運動学習・KAFO→AFOの移行						
18	弾性包帯の巻き方（実技試験対策）						
19	実技試験とグループワーク②（症例検討）						
20	実技試験とグループワーク②（症例検討）						
21	歩行介助の概論と症例別対応方法						
22	中枢神経疾患の歩行観察と装具選択						
23	下腿切断症例の歩行観察と運動療法選択						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・義肢装具は日々新たな技術が増え、リハビリテーションでも携わりますので、学んでいきましょう。 ・授業の進行によって、講義内容および実技内容、順序が変更になることがあります。							
テキスト ・PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版（羊土社） ・義肢装具のチェックポイント 第9版（医学書院）							
参考書 その他の参考資料は講義内で紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
日常生活動作治療学		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	田邊康二
教 育 目 標	【一般目標】 疾患別に生じる障害が日常生活活動に与える特徴を学び、治療に活用する。 【行動目標】 1. 健常人の日常生活活動（ADL）に必要な身体的条件を学ぶ。 2. 代表的なADLの評価内容を理解する。 3. 障害によるADL上の問題点を理解する。						
成 績 評 価 方 法	定期試験にて総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						田邊康二
2	ADLとQOLの概念、生活関連動作、セルフケアについて						
3	ICF分類について						
4	基本姿勢、基本動作						
5	基本動作①（寝返り動作、起居動作、立ち上がり、移乗動作、移動動作など）						
6	ADL動作①（食事動作、整容動作、排泄動作）						
7	ADL動作②（入浴動作、更衣動作）						
8	ADL評価①（Barthel Index、FIM、Lawtonの尺度、老研式活動能力指標、DASC-21、Katz Indexなど）						
9	疾患別ADL①（骨関節疾患①：変形性股関節症、変形性膝関節症）						
10	疾患別ADL②（骨関節疾患②：大腿骨頸部骨折術後）						
11	疾患別ADL③（骨関節疾患③：腰部椎間板ヘルニア）						
12	疾患別ADL④（骨関節疾患④：肩関節周囲炎）						
13	疾患別ADL⑤（脳血管疾患①：脳梗塞、脳出血）						
14	疾患別ADL⑥（神経筋疾患①：パーキンソン病）						
15	総括						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・各疾患の病態についてあらかじめ学習しておくこと。 ・スマホやPC（タブレットも含む）は許可がある場合以外に本科目の授業中は利用しないこと。 ・授業中に教員の指示に従わない場合は退出を指示する場合がある。速やかに指示に従うこと。							
テキスト ・15レクチャーシリーズ PT・OTテキスト ADL・実習 石川 朗／編（中山書店） ・必要に応じて資料を配布する。							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患理学療法治療学Ⅰ		講義	通年	PT2年	2単位	60時間	北村達夫
教 育 目 標	【一般目標】 中枢神経障害は、理学療法の対象となる頻度が高い疾患である。その理学療法実施の前提となる中枢神経に関わる知識を整理するとともに、理学療法との基礎的な関係や意義を理解する。						
	【行動目標】 1. 神経系および中枢神経系の構造と機能を理解する。 2. 脳血管障害の特徴について理解する。 3. 脳血管障害のリスク管理が実施できる。 4. 脳血管障害に関わる基本的な評価が実施できる。 5. 脳血管障害の理学療法プログラムを立案・実施できる。						
成 績 評 価 方 法	筆記試験(中間試験を含む)、グループワーク、課題発表、提出物、小テストで総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション，中枢神経の栄養血管						北村達夫
2							
3	脳血管障害の定義と病態						
4							
5	脳血管障害に対する医学管理						
6							
7	中枢神経系理学療法の基礎知識（１）						
8							
9	中枢神経系理学療法の基礎知識（２）						
10							
11	脳血管障害後片麻痺患者に対する理学療法評価						
12							
13	脳血管障害後片麻痺患者に対する理学療法（運動療法）						
14							
15	脳血管障害後片麻痺患者に対する理学療法（運動学習）						
16							
17	脳血管障害後片麻痺患者に対する理学療法のリスク管理，予後予測						
18							
19	脳血管障害後片麻痺患者に対する病期別の理学療法						
20							
21	脳血管障害後片麻痺患者に対する基本動作訓練						
22							
23	脳血管障害後片麻痺患者に対する立位・歩行動作訓練						
24							
25	脳血管障害後片麻痺患者に対する課題指向型トレーニング						
26							
27	感覚機能障害に対する理学療法						
28							
29	高次脳機能障害に対する理学療法						
30							
履修者へのコメント ※45時間以上の自己学習を要する。 ・授業内で実技を行う際は、授業に相応しい身だしなみで臨むこと。 ・授業の進行具合により、授業内容および順序を変更することがある。							
テキスト ・標準理学療法学 神経理学療法学 第3版（医学書院） ・授業内でも資料配布予定							
参考書 ・必要に応じて提示する予定である。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患理学療法治療学Ⅱ		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	北村達夫
教 育 目 標	【一般目標】 中枢神経疾患および末梢神経・筋の障害を引き起こす疾患は、理学療法の主要な対象疾患である。それらの疾患の病因、病態生理、症候、診断に関わる知識を理解する。また、理学療法の根底にある神経系に関する知識を整理するとともに、理学療法との関係や意義を理解する。						
	【行動目標】 1. 神経系および中枢神経系の構造と機能を理解する。 2. 中枢神経障害の原因や障害像、医学的治療方針を説明できる。 3. 理学療法の治療手段である運動療法の意義と基本的な考え方を説明できる。 4. 基本的な理学療法を実施できる。						
成績評価方法	筆記試験、小テストで総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	小脳疾患の理学療法（１）						北村達夫
2	小脳疾患の理学療法（２）						
3	小脳疾患の理学療法（３）						
4	Parkinson病の理学療法（１）						
5	Parkinson病の理学療法（２）						
6	Parkinson病の理学療法（３）						
7	脱髄疾患（多発性硬化症）の理学療法（１）						
8	脱髄疾患（多発性硬化症）の理学療法（２）						
9	成人筋疾患（神経原性疾患；筋萎縮性側索硬化症）の理学療法（１）						
10	成人筋疾患（神経原性疾患；筋萎縮性側索硬化症）の理学療法（２）						
11	成人筋疾患（神経原性疾患；シャルコーマリーツース病）の理学療法						
12	成人筋疾患（筋原性疾患；多発性筋炎・皮膚筋炎）の理学療法						
13	脱髄疾患（Guillain-Barré syndrome）の理学療法（１）						
14	脱髄疾患（Guillain-Barré syndrome）の理学療法（２）						
15	神経筋接合部疾患（重症筋無力症）の理学療法						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがある。 ・中枢神経に関する生理学、解剖学について、復習および当該科目の予習を行い、授業に臨むこと。							
テキスト ・標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版（医学書院） ・授業内でも資料配布予定							
参考書 ・病気がみえる vol.⑦脳・神経 MEDIC MEDIA 他							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
骨・関節疾患理学療法治療学		講義	前期	PT2年	2単位	60時間	山川貴久
教 育 目 標	【一般目標】 基本的な運動器疾患(骨・関節疾患)に関する基礎知識を習得する。その上で、各疾患に合わせた理学療法評価・治療概念の理解を深める。 【行動目標】 1. 各疾患の病態及び治癒過程を理解し、他者へ説明ができる。 2. 疾患情報や症状・状態から適切な評価項目を選択できる。 3. 運動器疾患における基本的な理学療法プログラムを実践できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	組織の再生・修復、骨折と脱臼						山川貴久
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
履修者へのコメント ※45時間以上の自己学習を要する。 ・授業内で実技を行う際は、授業に相応しい身だしなみで臨むこと。 ・授業の進行度合いによって、講義内容及び順序を変更することがある。							
テキスト Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学（メジカルビュー社）							
参考書 必要に応じて講義内で紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内部障害・呼吸器理学療法治療学		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	山川貴久
教 育 目 標	【一般目標】 内部障害に対する理学療法の臨床的意義と実際の展開方法を理解し、対象者に理学療法評価と運動処方ならびに理学療法介入が実践できるようになる。						
	【行動目標】 1. 内部障害の病態及び治癒過程を理解し、他者へ説明ができる。 2. 疾患情報や症状・状態から適切な評価項目を選択できる。 3. 疾患情報や症状・状態から適切なリスク管理方法を把握できる。 4. 予後を見据えた理学療法・環境調整を実践できる。						
成績 評価 方法	定期試験にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	呼吸理学療法学総論①(解剖学的構造)						山川貴久
2	呼吸理学療法学総論②(呼吸機能、動脈血ガス分析)						
3	呼吸機能評価①(スパイロメトリー、フローボリューム曲線)						
4	呼吸機能評価②(フィジカルアセスメント)						
5	呼吸機能評価③(フィジカルアセスメント)						
6	呼吸機能評価④(呼吸困難、運動耐容能、栄養状態、ADL、QOLなど)						
7	呼吸理学療法の基本的介入①(コンディショニング)						
8	呼吸理学療法の基本的介入②(コンディショニング)						
9	呼吸理学療法の基本的介入③(運動療法)						
10	呼吸理学療法の基本的介入④(ADL指導)						
11	疾患別呼吸理学療法の進め方①(閉塞性換気障害)						
12	疾患別呼吸理学療法の進め方②(拘束性換気障害)						
13	酸素療法・人工呼吸療法・吸引①						
14	酸素療法・人工呼吸療法・吸引②						
15	がんの理学療法						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・授業内で実技を行う際は、授業に相応しい身だしなみで臨むこと。 ・授業の進行度合いによって、講義内容及び順序を変更することがある。							
テキスト PT・OTビジュアルテキスト 内部障害理学療法学 第1版（羊土社）							
参考書 必要に応じて講義内で紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内部障害・呼吸器理学療法治療学演習		演習	後期	PT2年	1単位	45時間	後藤恵祐
教 育 目 標	【一般目標】 ・ 内部障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、各種検査（ECG/X線/血液）、治療（術式/デバイス/薬物療法）、リスク管理について理解できる。 ・ 内部障害理学療法の評価とエビデンスに基づいた運動処方を理解することができる。 【行動目標】 ・ 内部障害の病態を理解した上で、適切な理学療法評価を実践することができる。 ・ 理学療法評価と他部門からの検査結果を踏まえた運動処方を立案することができる。 ・ 多職種連携の重要性を理解し、その中で理学療法士が果たす役割を説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験および実技で総合的に判断する。 ※2/3以上の履修と総合成績60点以上の者に単位を付与する						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						後藤恵祐
2	心臓の機能解剖						
3	バイタル測定・フィジカルアセスメント・リスク管理						
4	バイタル測定・フィジカルアセスメント・リスク管理						
5	他部門情報：心電図						
6	他部門情報：心電図						
7	他部門情報：検査画像・血液検査・薬剤						
8	運動生理と運動処方の基本						
9	運動生理と運動処方の基本						
10	心肺運動負荷試験と理学療法評価						
11	心肺運動負荷試験と理学療法評価						
12	循環器疾患各論 虚血性心疾患の理学療法①						
13	循環器疾患各論 虚血性心疾患の理学療法②						
14	循環器疾患各論 弁膜症/先天性心疾患/その他の心血管疾患の理学療法						
15	循環器疾患各論 心不全の理学療法①						
16	循環器疾患各論 心不全の理学療法②						
17	循環器疾患各論 大血管疾患/末梢動脈・静脈疾患						
18	循環器疾患各論 腎疾患の理学療法						
19	循環器疾患各論 糖尿病の理学療法療法評価						
20	ケーススタディ						
21	ケーススタディ						
22	ケーススタディ 発表						
23	ケーススタディ 発表						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 超高齢社会の現代では内部障害の割合が増加傾向にあります。臨床現場では「全身状態管理能力/緊急時対応能力」を持った理学療法士が求められています。「疾患」を診るのではなく「全体像」を診る力を培っていきましょう。授業の進行具合で内容が変更になる場合があります。							
テキスト PT・OTビジュアルテキスト 内部障害理学療法学（羊土社）							
参考書 標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学 その他必要に応じて講義内で紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
小児疾患理学療法治療学		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 小児の障害を引き起こす主な疾患の治療を学ぶ。 ＜脳性麻痺・水頭症・二分脊椎・悪性腫瘍・遺伝子疾患（筋ジストロフィー・Down症候群）、自閉症スペクトラム＞ 【行動目標】 1. 疫学、予後について説明できる。 2. 各疾患に対する小児のリハビリテーションについて説明できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験で判定する。						
回	内 容						担当者
1	正常人間発達【0か月～12か月】						山崎康幸
2	正常人間発達【1歳～就学前】						
3	運動発達評価						
4	正常姿勢反射と運動発達						
5	異常姿勢反射と運動発達障害						
6	脳性麻痺総論【定義～分類】						
7	脳性麻痺（治療）						
8	脳性麻痺の治療と国家試験問題						
9	循環器構造・循環器疾患						
10	二分脊椎・水頭症						
11	発育形成不全股関節症・ペルテス病・小児疾患(やけど・骨折・循環不全)						
12	筋ジストロフィー						
13	DMD厚生労働省研究班分類と理学療法治療介入						
14	遺伝子疾患・ダウン症						
15	発達障害・虐待						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 小児のリハビリテーションは中枢神経の理解も深まりますので、しっかり身に着けていきましょう。							
テキスト シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第3版（南江堂）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
脊髄損傷理学療法治療学		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	田邊康二
教 育 目 標	【一般目標】 脊髄損傷の病態を理解し、基本的な評価や理学療法を実施することができる。 【行動目標】 1. 脊髄損傷の病態が理解できる。 2. 損傷高位に応じた理学療法評価が実施できる。 3. 損傷高位に応じた理学療法プログラムが立案できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験にて総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	脊髄損傷の基礎知識①（脊髄の解剖，神経症状など）						田邊康二
2	脊髄損傷の基礎知識②（中心性頸髄損傷、ブラウンセカールなど）						
3	脊髄損傷の理学療法評価①						
4	脊髄損傷の理学療法評価②						
5	脊髄損傷の理学療法評価③						
6	脊髄損傷の合併症①						
7	脊髄損傷の合併症②						
8	損傷高位別（四肢麻痺：C4～C6）の基本動作・日常生活動作①						
9	損傷高位別（四肢麻痺：C6～Th1）の基本動作・日常生活動作②						
10	損傷高位別（対麻痺）の基本動作，日常生活動作①						
11	損傷高位別（対麻痺）の基本動作・日常生活動作②						
12	脊髄損傷急性期の理学療法，リスク管理①						
13	脊髄損傷回復期の理学療法，リスク管理②						
14	脊髄損傷の予後予測①						
15	車椅子の選定と活用①						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・脊髄損傷の病態についてあらかじめ学習しておくこと。・症例の貴重な動画を見るので内容についてメモをとるなど記録すること。・スマホやPC(タブレットも含む)は許可がある場合以外に本科目の授業中は利用しないこと。・授業中に教員の指示に従わない場合は退出を指示する場合がある。速やかに指示に従うこと。							
テキスト ・脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版 岩崎 洋（著、編集）/（文光堂） ・必要に応じて資料を配布する。							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
スポーツ理学療法学		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	後藤恵祐
教 育 目 標	【一般目標】 1. スポーツ理学療法の概要と考え方について理解する。 2. スポーツ傷害の発生機序や組織のヒーリングプロセス（修復過程）を理解する。						
	【行動目標】 1. スポーツ傷害に対して、基礎的な理学療法評価と治療プログラムを立案することができる。 2. スポーツ動作から患部のメカニカルストレスの原因を推測し、再発予防のための理学療法プログラムを立案することができる。						
成績 評価 方法	定期試験および実技で総合的に判断する。 ※2/3以上の履修と総合成績60点以上の者に単位を付与する						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション 理学療法とスポーツの関わり						後藤恵祐
2	スポーツ理学療法 概論						
3	組織のヒーリングプロセス						
4	下肢スポーツ障害（足関節/膝関節）の疾患と理学療法①						
5	下肢スポーツ障害（足関節/膝関節）の疾患と理学療法②						
6	下肢スポーツ障害（膝関節/股関節）の疾患と理学療法①						
7	下肢スポーツ障害（膝関節/股関節）の疾患と理学療法②						
8	上肢・体幹スポーツ障害（肩関節/体幹）の疾患と理学療法①						
9	上肢・体幹スポーツ障害（肩関節/体幹）の疾患と理学療法②						
10	上肢・体幹スポーツ障害（肘関節/手関節）の疾患と理学療法①						
11	上肢・体幹スポーツ障害（肘関節/手関節）の疾患と理学療法②						
12	スポーツ障害に対する理学療法評価と治療プログラム						
13	予防と処置（ストレッチング、RICE処置、テーピング）						
14	スポーツ傷害に対する整形外科テスト総演習						
15	実技試験						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 スポーツ理学療法は「日常生活動作の確立」だけではなく「運動機能の確立」と「再発予防」を踏まえたアプローチが重要となります。その上で必要となる考え方や知識、実技を学んでいきます。授業の進行によって講義内容及び実技内容、順序が変更になることがあります。							
テキスト スポーツ理学療法プラクティス 急性期治療とその技法（文光堂）							
参考書 必要に応じて授業内で紹介する							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合理学療法学Ⅰ		講義	後期	PT1年	1単位	30時間	山川貴久
教 育 目 標	【一般目標】 身体組織(骨・筋・靱帯・神経・血管など)の構造について、触診を通して位置関係を把握する。それらが機能的にどのような意味を示すのかを学習することで臨床応用へと繋げていく。 【行動目標】 1. 理学療法における触診の意義・方法を説明できる。 2. 触診時のリスクを理解し、対象者の安全に配慮することができる。 3. 身体の機能・構造を理解し、理学療法に必要な触診を実践できる。						
成績評価方法	定期試験(筆記試験)にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション(触診方法・安全管理)						山川貴久
2	上肢の触診①(肩甲骨、鎖骨、肩関節)						
3	上肢の触診②(上腕骨、橈骨、尺骨、肘関節)						
4	上肢の触診③(手根骨、手関節、近位手根列)						
5	上肢の触診④(手根骨、中手骨、遠位手根列)						
6	下肢・体幹の触診①(骨盤、大腿骨)						
7	下肢・体幹の触診②(膝蓋骨、脛骨、腓骨、膝関節)						
8	下肢・体幹の触診③(足根骨、足関節、ショパール関節)						
9	下肢・体幹の触診④(足根骨、中足骨、リスフラン関節)						
10	下肢・体幹の触診⑤(頭蓋骨、頸椎)						
11	下肢・体幹の触診⑥(胸椎、腰椎、椎間関節)						
12	下肢・体幹の触診⑦(胸骨、肋骨)						
13	神経・血管の触診						
14	筋触診の臨床的応用						
15	身体の位置関係						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 実技が中心となるため、授業に相応しい身だしなみで臨むこと。							
テキスト ・運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢 改訂第2版 (メジカルビュー社) ・運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹 改訂第2版 (メジカルビュー社)							
参考書 ・図解 四肢と脊椎の診かた (医歯薬出版株式会社)							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合理学療法学Ⅱ		講義	通年	PT2年	2単位	60時間	牛丸翔太
教 育 目 標	【一般目標】 臨床実習に備え、理学療法における臨床思考・臨床推論過程を身に付ける。疾患の情報収集から病態把握ができるようになる。 対象者に適切な評価プログラムを立案し、得られた結果から統合と解釈、目標設定、治療プログラム立案までの一連の流れを理解する。						
	【行動目標】 ①自ら教科書・参考書・文献を調べ行動し授業に参加する。 ②臨床実習で問われる課題に向けて準備する必要性を理解する。 ③感染対策・安全管理の基礎を押さえ実習に向けた心構えを持つ。						
成績評価方法	授業中の提出書類およびレポート課題により評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション／2年生の実習について						牛丸翔太
2	個人情報保護法・医療倫理の基礎						
3	理学療法分野でよく用いる用語・略語						
4	書籍や文献の調べ方やレポートへの記載方法						
5	カルテの構造と読み方						
6	カルテから何を読み取るか						
7	他職種からの情報収集						
8	ICFを用いた情報の整理						
9	ICFを用いた情報の整理						
10	運動器疾患の病態把握①						
11	運動器疾患の病態把握②						
12	中枢神経疾患の病態把握①						
13	中枢神経疾患の病態把握②						
14	代表的な既往症とリスク管理に与える影響						
15	代表的な既往症とリスク管理に与える影響						
16	臨床推論の考え方						
17	ゴール設定、治療プログラムを立てる際の注意点						
18	運動器疾患症例(情報収集、問題点の抽出、ICF整理)						
19	運動器疾患症例(短期・長期ゴール設定・治療プログラム立案)						
20	フィードバック・全体共有・臨床推論の振り返り						
21	中枢神経疾患症例(情報収集、問題点の抽出、ICF整理)						
22	中枢神経疾患症例(短期・長期ゴール設定・治療プログラム立案)						
23	フィードバック・全体共有・臨床推論の振り返り						
24	実習成果物記載方法①						
25	実習成果物記載方法②						
26	実習成果物記載方法③						
27	レジュメの構成						
28	レポートをレジュメにまとめる際のポイント						
29	感染対策①						
30	感染対策②						
履修者へのコメント ※45時間以上の自己学習を要する。 ・臨床実習で問われる課題について学習します。 ・理学療法士になってからも大切な臨床思考・推論過程について学習します。 ・授業の中でグループワークを行うことがあります。積極的に参加してください。							
テキスト ・適宜授業資料を配布							
参考書 ・症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト 症例情報							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法治療学研究		講義	通年	PT3年	1単位	15時間	山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 科学的根拠に基づく医療が求められるなかで、理学療法を科学的視点で検証し形づくることの意義は大きい。本講義では、1. 基礎的な研究デザインを理解すること、2. 統計量の活用の仕方を学ぶこと、3. 簡単な検定方法を実践できることを目指します。						
	【行動目標】 1. データの要約の仕方を理解し、算出できる。 2. 基礎的な研究デザインの特徴を説明できる。						
成績評価方法	筆記試験にて判断する。						
回	内容						担当者
1	統計学の基礎【平均値・中央値・分散・偏差値】						山崎康幸
2	統計学の基礎【統計用語】						
3	データの尺度・特異性・感度・陽性尤度						
4	研究のデザイン【メタアナリシス・ランダム化比較試験・コホート研究】						
5	検定の手順【仮説と有意水準・検定の手順・第1種の過誤・第2種の過誤】						
6	確率【母集団と標本(1標本と2標本について)】						
7	各検定の種類【t検定・F検定・2群間の差の検定・3群間の検定】						
8	エビデンスとガイドライン						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 統計学の初歩について学習しながら、データの扱い方について学習を進めます。また、国家試験対策として頻出される問題に関しても解説を実施していきます。期末試験では四則演算や百分率、平方根の計算が出来る一般電卓又は事務用電卓のみ使用を認めます。							
テキスト 指定なし							
参考書							

	Ⅲ 専門分野
Ⅰ．基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	地域理学療法学
	3単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生活環境論		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	牛丸翔太
教 育 目 標	【一般目標】 障害のある方や高齢者が自分の力で生活できるように、家の環境や福祉用具、使える制度を活用した支援について学ぶ。 【行動目標】 1. 障害者・高齢者の生活における環境上の障壁を理解し、福祉用具・住環境・制度の基本的な知識を説明できる。 2. 対象者の障害像に応じた福祉用具・自助具・住宅改修の選択理由を説明できる。 3. 模擬症例を通じて、生活環境整備の観点から具体的な支援計画を提案できる。						
成 績 評 価 方 法	グループ発表、定期試験にて総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション・ADL総論						牛丸翔太
2	ADL評価（BI・FIM・自立度判定基準）						
3	姿勢・起居移動・床上動作						
4	歩行動作と歩行補助具						
5	移乗動作・車椅子						
6	ADL各論（食事・更衣・整容・排泄・入浴・家事）						
7	福祉用具・自助具（種類・機能・給付制度）						
8	住環境整備・地域環境・在宅支援サービス						
9	片麻痺・PD・呼吸器疾患に対するADL支援						
10	脊髄損傷・下肢切断・視覚障害に対するADL支援						
11	RA・THA後・変形性膝関節症・脊椎疾患に対するADL支援						
12	模擬症例演習①（症例情報提供・班別調査・資料作成前半）						
13	模擬症例演習②（資料作成後半・仕上げ）						
14	プレゼンテーション・相互評価						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 授業の進行によって講義内容および順序が変更になることがある。							
テキスト 講義内で適宜資料を配布する。							
参考書 15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト ADL・実習(中山書店)							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域理学療法学		講義	後期	PT1年	1単位	30時間	川崎初美
教 育 目 標	【一般目標】 地域リハビリテーションを実践するために、地域リハビリテーションの定義・目標・地域に果たす役割を理解し、リハビリテーションの各期(急性期～終末期まで)における関わり方を理解する。 【行動目標】 1. 地域リハビリテーションに関する事柄を説明することが出来る(地域包括ケアシステム、I C F、生活リハビリテーション、訪問リハビリテーション、住宅改修と福祉用具、サービス担当者会議、地域ケア会議)。 2. グループワークをおこなう中で、自分の考えをまとめ、意見を述べる事が出来る(カンファレンス実践、介護予防実践、もしバナゲーム、認知症予防のための食事メニュー作り、訪問リハ危険予知訓練、など)。						
成績 評価 方法	定期試験、授業内の小テスト、および提出物で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	自己紹介、訪問リハビリテーションの実際						川崎初美
2	介護保険の仕組み 実務で活用する報告書類						
3	地域包括ケアシステム 訪問リハでの危険予知訓練						
4	活動と参加（I C Fを意識したゴール設定） 災害時リハ考察						
5	介護予防の理解と実践①（基本体操）						
6	介護予防の理解と実践②（地域での予防教室の実際）						
7	介護予防の理解と実践③（認知症予防）料理メニュー創作ワーク						
8	終末期リハビリテーション、福祉用具と住宅改修の理解						
9	福祉レクリエーションと高齢者や障がい者の心理、健康けん玉体験						
10	コミュニケーション技術①（地域サロンの疑似体験、趣向を知る）						
11	介護予防の理解と実践④（転倒予防アイデア出し）ライフキネティック体験						
12	地域サロンでの活動紹介（けん玉を使った脳・身体への刺激）						
13	コミュニケーション技術②（当事者や家族の気持ちを考える）						
14	ケアカンファレンス実践（PTとして求められる意見、他職種との連携）						
15	地域リハビリテーションの実際（互助活動の作り方 場づくりの方法）試験前復習						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・グループワークでは、積極的に意見交換すること。 ・理学療法士として働くことの心構えができるように、実践者向けの内容を伝える。							
テキスト プリントを配布する。							
参考書 行政機関のホームページや各種団体の情報などを活用していく。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域理学療法学演習		演習	前期	PT2年	1単位	45時間	山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 地域理学療法の概念、方法について理解する。						
	【行動目標】 1. 地域理学療法の位置づけを理解する。 2. 地域包括ケアシステムについて理解する。 3. 介護予防について理解する。 4. 通所、在宅理学療法について理解する。 5. 地域における理学療法士の働き方について理解する。						
成績評価方法	定期試験、レポートなどを総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	地域リハとは！ 家族に介護者が！ 介護保険導入から認定までの流れ						山崎康幸
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・グループワークが多い講義となります。主体的な姿勢で授業に参加して下さい。 ・教科書と配布資料にて授業を進めるため、教科書を持参して下さい。 ・授業の進行状況に応じて内容を調整することがあります。							
テキスト ・Crosslink 理学療法学テキスト 地域理学療法学（メジカルビュー社） ・必要に応じて資料を配布する。							
参考書 ・編集 浅川康吉 CrossLink 理学療法学テキスト 地域理学療法学 ・総編集 石川郎 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 地域理学療法学							

	Ⅲ 専門分野
Ⅰ．基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	臨床実習
	20単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
見学実習		実習	後期	PT1年	1単位	45時間	北村達夫 後藤恵祐 目黒絵美
教 育 目 標	【一般目標】 入学後早期に保健・医療・福祉の現場にいる理学療法士の業務を体験し、理学療法士となる覚悟と関心を早期に高め、その後の学習へ動機づけ、能動的・問題解決的な自己学習態度を身につけさせることを目的とする。また、見学を通し医療・保健・福祉に関わる理学療法士としての態度を身につける礎とする。						
	【行動目標】 1. 専門職として責任ある態度・行動をとることができる。 2. リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。 3. 守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。 4. 学生としての必要な記録と報告ができる。						
成 績 評 価 方 法	別紙（見学実習の手引き）参照のこと。						
	内 容						担 当 者
	見学実習 ガイダンス						北村達夫 後藤恵祐 目黒絵美
	OSCE						北村達夫 後藤恵祐 目黒絵美
	見学実習						全教員
	見学実習後報告会						全教員
履修者へのコメント ・学内での勉強がどのように臨床現場で活かされているかを体験し、今後の勉強に繋がれることを期待する。 ・実習前及び実習中の感染対策・体調管理を徹底すること。・報告会、OSCE試験は実習成績に含まれる。 ・見学実習では目指す理学療法士の適正と態度が特に重要視されるので普段の行動から留意しておくこと。							
テキスト 指定なし							
参考書 指定なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
評価実習		実習	後期	PT2年	4単位	180時間	田邊康二 佐川裕也
教 育 目 標	【一般目標】 医療・保健・福祉に関わる理学療法士としての態度を身に付ける。これまでに修得した知識・技術を臨床場面に応用し、対象者の問題を捉えるための評価技術を向上させる。						
	【行動目標】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。③臨床教育者（CE）の指導の下に、理学療法評価を実施し、その結果の解釈や相互関係を吟味し、分析統合を経て問題点を整理することができる。そして、その問題点に対する適切な目標設定、治療プログラムの立案ができることが望ましい。④守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。⑤学生としての必要な記録と報告ができる。						
成績評価方法	後日配布される別紙（評価実習の手引き）参照のこと						
	内容						担当者
	評価実習前ガイダンス						田邊康二
	評価実習						全教員
	評価実習後ガイダンス、成果報告会						田邊康二
履修者へのコメント 評価実習に向けて、各自座学・実技の練習を怠らないこと。							
テキスト 指定なし							
参考書 指定なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域理学療法実習		実習	後期	PT2年	1単位	45時間	田邊康二 佐川裕也
教 育 目 標	【一般目標】 地域理学療法学や地域理学療法学演習など学内で積み重ねた知識、見学実習や評価実習で学んだ経験を基に、地域包括ケアシステムにおける地域理学療法の現場の知見を得ることである。同時に地域リハビリテーション活動支援や理学療法士の役割、関連専門職の役割についての見識も深める。 また理学療法や住環境整備・福祉用具・介護用品を用いた支援技術、多職種連携、行政との関りを通して、障害を持つ地域在住の方の生活活動に必要な援助サービスを理解することを目指す。						
	【行動目標】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。③通所または訪問リハビリテーション利用者（個別、集団）に対する理学療法（評価・治療）を見学する。④ケアプランの立案過程を見学する。⑤守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。⑥学生としての必要な記録と報告ができる。						
成績評価方法	後日配布される別紙（地域理学療法実習の手引き）参照のこと						
	内容						担当者
	地域理学療法実習前ガイダンス						佐川裕也
	地域理学療法実習						全教員
	地域理学療法実習後ガイダンス、成果報告会						佐川裕也
履修者へのコメント 地域理学療法実習に向けて、各自座学・実技の練習を怠らないこと。							
テキスト 指定なし							
参考書 指定なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習 I		実習	前期	PT3年	8単位	360時間	山川貴久 山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 保健・医療・福祉に関わる理学療法士としての態度を身につける。これまでに修得した知識や技術を、対象者の問題を解決する臨床過程に応用させることを学ぶ。臨床教育者の指導のもとに、一連の理学療法業務に対応できる能力およびチームの一員としての責任と自覚を培うことを目標とする。 【行動目標】 ①専門職として責任ある態度・行動をとることが出来る。②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し専門職としての人間性を養う。③臨床教育者の助言のもとに、理学療法周辺業務を実施できる。④理学療法評価、治療計画の立案、基本的理学療法実施の過程を、臨床教育者の臨床推論を共有しながら一部実施できる。⑤守秘義務、個人情報の保護について理解・実施する。⑥学生としての必要な記録と報告ができる。						
	成績評価方法						
別紙（総合臨床実習の手引き）参照のこと							
	内 容						担当者
	総合臨床実習 I ガイダンス						山川貴久 山崎康幸
	総合臨床実習 I						全教員
	総合臨床実習 I 終了後ガイダンス						山川貴久 山崎康幸
履修者へのコメント 臨床実習指導者らの注意・指導を真摯に受け止め、研鑽することが求められる。							
テキスト 指定なし							
参考書 指定なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習Ⅱ		実習	通年	PT3年	8単位	360時間	山川貴久 山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 保健・医療・福祉に関わる理学療法士としての態度を身につける。これまでに修得した知識や技術を、対象者の問題を解決する臨床過程に応用させることを学ぶ。臨床教育者の指導のもとに、一連の理学療法業務に対応できる能力およびチームの一員としての責任と自覚を培うことを目標とする。 【行動目標】 ①専門職として責任ある態度・行動をとることが出来る。②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し専門職としての人間性を養う。③臨床教育者の助言のもとに、理学療法周辺業務を実施できる。④典型的な障害像についての理学療法評価、治療計画の立案、基本的理学療法実施、治療プログラム修正の過程一部を、自らの臨床推論を臨床教育者と共有しながら、見守りのもと実施できる。⑤守秘義務、個人情報保護について理解・実施する。⑥学生としての必要な記録と報告ができる。						
	成績評価方法	別紙（総合臨床実習の手引き）参照のこと					
	内 容						担当者
	総合臨床実習Ⅱ ガイダンス						山川貴久 山崎康幸
	総合臨床実習Ⅱ						
	総合臨床実習Ⅱ 終了後ガイダンス						山川貴久 山崎康幸
履修者へのコメント 臨床実習指導者らの注意・指導を真摯に受け止め、研鑽することが求められる。							
テキスト 指定なし							
参考書 指定なし							

	III 専門分野
I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	理学療法学特論
	3単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法学特論Ⅰ		演習	通年	PT1年	1単位	45時間	北村達夫 後藤恵祐
教 育 目 標	【一般目標】 実習や次学年の学習に向けて基礎科目の復習・実技練習を行い、学習方法や実技練習方法を習得する。 【行動目標】 1. 周囲の学生とのコミュニケーションを大切にし、積極的にグループ学習へ参加する。 2. 周囲の学生と一緒に知識・技術の向上に努め、自身が得られたものを他者へ説明・伝達ができる。 3. 自己解決が困難な際、教員・友人等に相談し解決することができる。 4. 口頭試問や触診などをグループ内で知識・技術を高めあう。						
成 績 評 価 方 法	定期試験を含め、総合的に勘案して判定する。具体的な内容は今後伝える。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション その1						全教員
2	座学：グループ課題①						
3	座学：グループ課題②						
4	座学：グループ課題③						
5	座学：グループ課題④						
6	座学：グループ課題⑤						
7	座学：グループ課題⑥						
8	座学：グループ課題⑦						
9	座学：グループ課題⑧						
10	座学：グループ課題⑨						
11	座学：グループ課題⑩						
12	オリエンテーション その2						
13	オリエンテーション その3						
14	実技：課題②のグループ活動						
15	実技：課題③のグループ活動						
16	実技：課題④のグループ活動						
17	実技：課題⑤のグループ活動						
18	実技：課題⑥のグループ活動						
19	実技：課題⑦のグループ活動						
20	実技：課題⑧のグループ活動						
21	実技：課題⑨のグループ活動						
22	オリエンテーション その4						
23	オリエンテーション その5						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 この講義はグループ学習を中心とし、勉強方法及び勉強習慣を養うことを目指す。限られた時間を大切にし、周囲の学生と一緒に成長出来ることを期待する。 授業の進行具合により、授業内容を変更する場合があります。							
テキスト 各授業で随時説明する。							
参考書 各授業の進捗状況で使用するものを説明する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法学特論Ⅱ		演習	通年	PT2年	1単位	45時間	田邊康二 佐川裕也
教 育 目 標	【一般目標】 実習や次学年の学習に向けて基礎科目の復習・実技練習を行い、学習方法や実技練習方法を習得する。						
	【行動目標】 1. 周囲の学生とのコミュニケーションを大切にし、積極的にグループ学習へ参加する。 2. 周囲の学生と一緒に知識・技術の向上に努め、他者への説明・伝達ができる。 3. 自己解決が困難な際、教員・友人等に相談し解決をすることができる。 4. 実技指導など通じてグループ内で知識・技術を高め合う。						
成 績 評 価 方 法	定期試験、課題進行状況を総合的に勘案して判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						田邊康二 佐川裕也 牛丸 翔太 その他理学療 法学科教員
2	口頭試問、実技など						
3	口頭試問、実技など						
4	口頭試問、実技など						
5	口頭試問、実技など						
6	口頭試問、実技など						
7	口頭試問、実技など						
8	口頭試問、実技など						
9	口頭試問、実技など						
10	口頭試問、実技など						
11	口頭試問、実技など						
12	口頭試問、実技など						
13	口頭試問、実技など						
14	口頭試問、実技など						
15	口頭試問、実技など						
16	口頭試問、実技など						
17	口頭試問、実技など						
18	口頭試問、実技など						
19	口頭試問、実技など						
20	口頭試問、実技など						
21	口頭試問、実技など						
22	口頭試問、実技など						
23	口頭試問、実技など						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 グループ学習が中心となる。他者との交流を大切にし、責任感を持った行動をすることを心がけていくこと。空き時間が生じた場合、時間を無駄にせず他の学習時間に役立てる。授業中に教員の指示に従わない場合は退出を指示する場合がある。速やかに指示に従うこと。受講時間内に無断で外出または帰宅したものは欠席扱いとする。状況に応じて1コマ内で複数回出席を取ることがありますので、理解のうえ適切に対応すること。							
テキスト 随時配布する予定							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法学特論Ⅲ		講義	通年	PT3年	1単位	30時間	山川貴久 山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 1. 国家試験に向けて基礎科目の復習や実技練習を行い、知識・技術の定着を図る。 2. 国家試験に出題される問題の傾向を理解する。 【行動目標】 1. これまでの実習で指摘された点を修正することが出来る。 2. 国家試験問題の解説を作成することが出来る。						
成 績 評 価 方 法	提出物および定期試験を総合的に判断する。なお、課されている提出物が遅延・未提出・および著しく精度の低いものは減点の対象とする。						
回	内 容						担当者
1	座学・実技						全教員
2	座学・実技						
3	座学・実技						
4	座学・実技						
5	座学・実技						
6	座学・実技						
7	座学・実技						
8	座学・実技						
9	座学・実技						
10	座学・実技						
11	座学・実技						
12	座学・実技						
13	座学・実技						
14	座学・実技						
15	座学・実技						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 座学・実技練習で学んだ基礎知識・評価方法などの練習は授業内だけでなく授業外でも復習を必ず行うこと。国家試験に向けて、各自が自覚を持って取り組んでください。							
テキスト ・指定教科書なし。 ・各担当教職員の指示に従うこと。							
参考書 各自テーマに合わせた参考書を用意する。							